

第5期 豊中市地域福祉活動計画

Linkプラン とよなか5

地域共生社会の実現に向けて～すべての人に居場所と役割～



社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

目 次

はじめに

地域福祉活動計画を振り返れば

関西学院大学 名誉教授 牧里 每治 氏

1. 地域福祉活動計画の概要……………	1
地域福祉計画とは	
「Link プランとよなか5」の趣旨	
地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係	
圏域の考え方	
豊中市社会福祉協議会の取り組み（ニーズ把握）	
2. これまでの推進状況……………	7
第4期地域福祉活動計画リンクプラン4の重点プロジェクト	
3. 地域福祉を取り巻く状況と課題……………	10
4. 第5期地域福祉活動計画（Link プランとよなか5）の基本的な考え方 ……	11
5. 人材育成の10のチャレンジ 楽しいことからつながる福祉活動へ……………	15
6. 校区福祉委員会アクションプラン～次世代担い手をつなぐために～……………	17
資料編……………	57

はじめに

地域福祉活動計画を振り返れば

関西学院大学 名誉教授 牧里 每治

地域福祉活動計画は、市の地域福祉計画の策定開始とともにスタートしました。市社協が主体となる地域福祉活動計画は、市の地域福祉計画と車の両輪のように相互に補完する関係で策定され、事業推進されてきました。市の地域福祉計画は、主に地域における福祉施策に行政計画ですが、市社協の活動計画は住民の活動推進を図る行動計画という特徴を持っています。地域における福祉サービスの充実を促進する役割と、住民が相互につながり助け合う活動を促す役割を市と市社協がパートナーシップを結んで進めているわけです。

実は、2000年の社会福祉法が改正される以前から、市社協では行政に先立って「地域福祉推進計画」なるものを策定して、先駆的に地域福祉の発展を担ってきました。まだ行政としての地域福祉計画が策定されていない10年前の取り組みでしたから、その特色は、住民と行政の間に立つ中間支援的な機能をもつというものでした。当初から女性参画センターや国際交流センターなどが構想されるなかで、市社協も中間支援的な役割をもつ総合的福祉団体としての使命を果たそうと意図したものだのように思います。

その思いや願いが先だった感はぬぐえないにしても、校区福祉委員会の小地域福祉活動を基盤に市社協レベルでは全市的にボランティアセンターや当事者支援組織の充実を図る基本的な方向性が定まったように思えます。まだNPO（非営利民間団体）もみえない存在でしたが、これからの市社協は、あらゆる福祉系団体との連携を含めてプラットフォームを形成するところに本質的な意義を見出そうとしたのでした。このような校区という小地域からボトムアップで福祉まちづくりを構想し、豊中市の地域福祉を紡ぎあげる仕組みの時期があったからこそ、全国から注目される市社協になりえたと言えるでしょう。

今日の「地域包括ケアシステム」という政策方針も大阪府に打ち出したライフセーフティネット構想をいち早く豊中市で取り組みはじめ、国に先立ってCSW（コミュニティ・ソーシャルワーカー）を配置しました。CSWが住民と一緒に困窮している住民の生活課題の解決に機動的に取り組むという画期的な支援モデルでした。豊中市行政もCSWの実効性を高めるために地域福祉計画を策定し、あわせて健康福祉審議会を条例設置しました。地域福祉計画推進のために地域福祉課（地域共生課の前身）を設置し、市社協と協働して最初に取り組んだ全国校区小地域活動サミットの第1回でした。

この度の地域福祉活動計画では、人材育成に関する10のチャレンジ提案が挙げられていますが、校区福祉委員会アクションプランも重要な取り組み内容になっています。市域全体の福祉系民間団体のネットワークを基盤にした地域福祉活動計画とともに校区福祉のアクションプラン（住民行動計画）として次世代への住民福祉の継承と発展を願うものです。校区福祉委員会アクションプランは、住民主体の地域福祉の取り組みを可視化するものでもあるし、住民エネルギーを汲み上げる仕組みです。校区福祉委員会は、住民自治にもとづく地域福祉の実現を目ざしているといわなければなりません。

1. 地域福祉活動計画の概要

地域福祉計画とは

この計画は、豊中市総合計画を上位計画とし、地域福祉を具体化するものと位置づけられています。また、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、障害者長期計画、障害福祉計画、障害児福祉計画、子育て・子育て支援行動計画、健康づくり・食育推進計画などの分野別計画に関して、それらの計画に関する地域福祉の視点や理念、方針、推進方向などを示し、地域における展開を総括するとともに、補完、充実する役割を持ちます。

また、住民や民間の総合的な行動計画としてつくられる豊中市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」と地域福祉計画は車の両輪の関係にあります。「第5期豊中市地域福祉計画」及び「第5期地域福祉活動計画 Link プランとよなか5」との連携のもと地域福祉を推進していきます。

「Linkプランとよなか5」の趣旨

趣 旨 「第5期豊中市地域福祉計画」の基本理念と基本目標を共有

地域福祉の推進のために、公民協働で取り組む為の基本目標を設置し、それぞれの役割分担と連携計画について策定

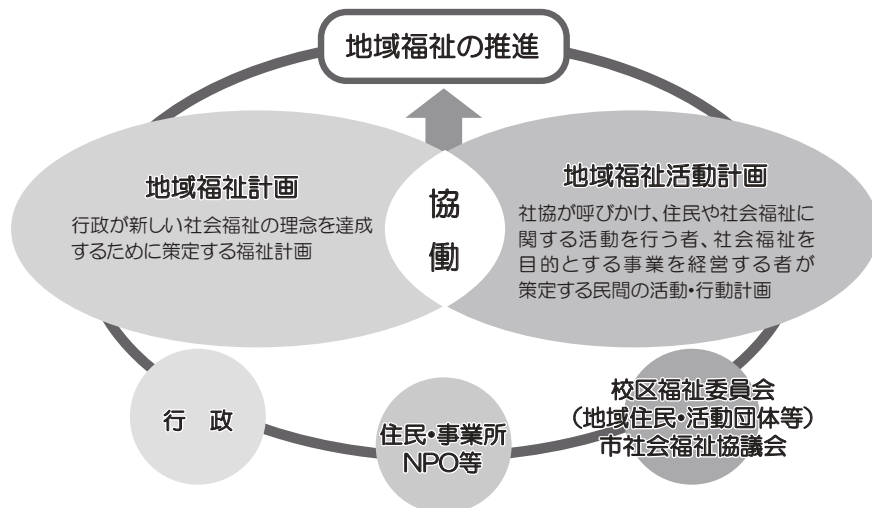
共通基本理念

みんなで創る 希望を実現するための 多様な選択ができるまち

共通基本目標

- 1 包括的、継続的な支援体制の整備・強化
- 2 安全・安心で活気あふれる地域づくり
- 3 地域福祉の持続可能性の向上

地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係

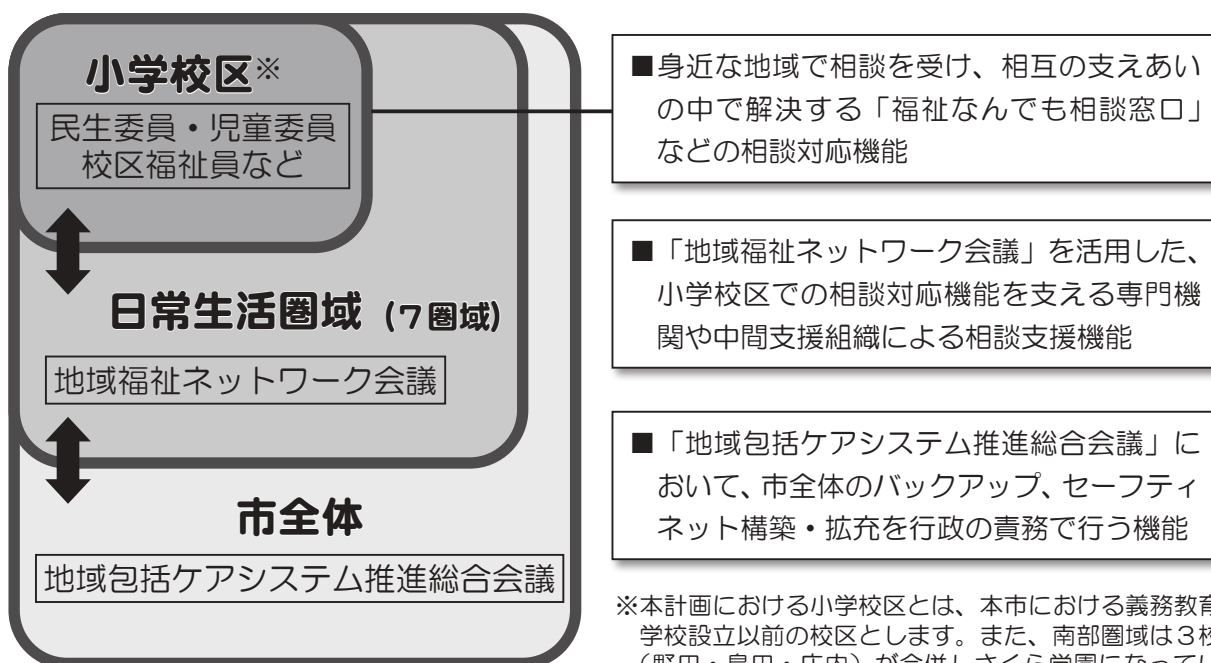


主要な関連計画	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
豊中市総合計画	基本構想(2018年度～2027年度)											
	前期基本計画					後期基本計画						
豊中市地域福祉計画		第4期計画(2019年度～2023年度)					第5期計画(2024年度～2029年度)					
豊中市地域福祉活動計画 (社会福祉協議会)		第4期計画(2019年度～2023年度)					第5期計画(2024年度～2029年度)					

圏域の考え方

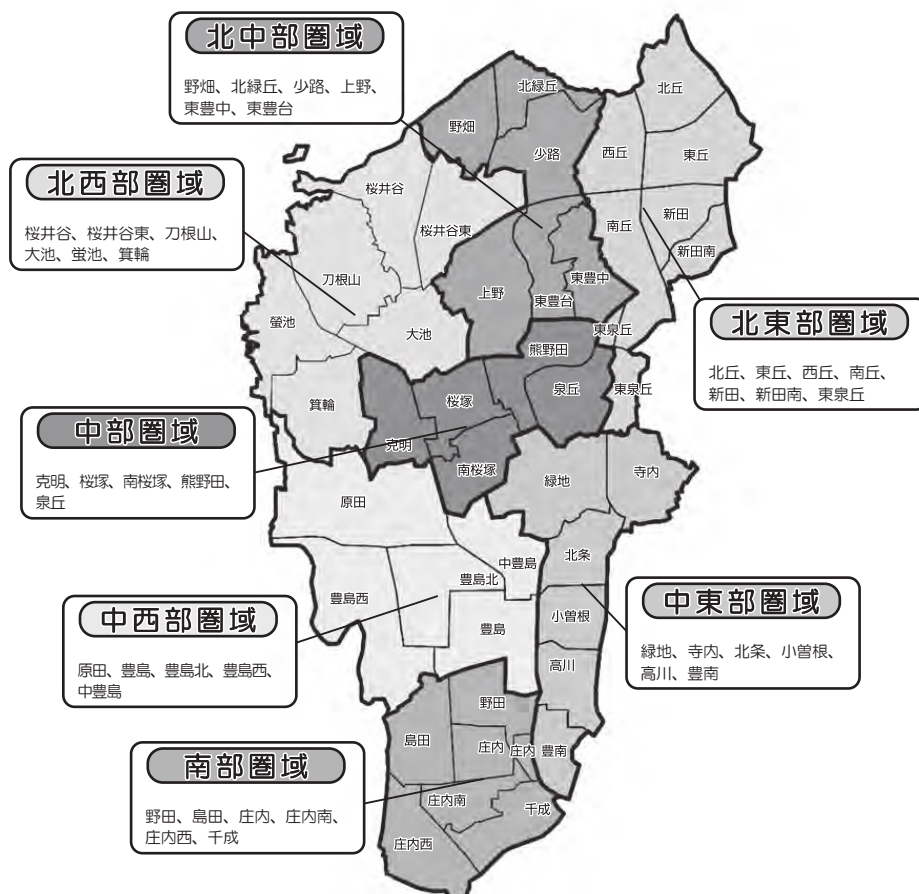
本計画では、第5期豊中市地域福祉計画までに構築した市全体、日常生活圏域、小学校区の三層構造の圏域の考え方を継承します。

【圏域とその機能等のイメージ】

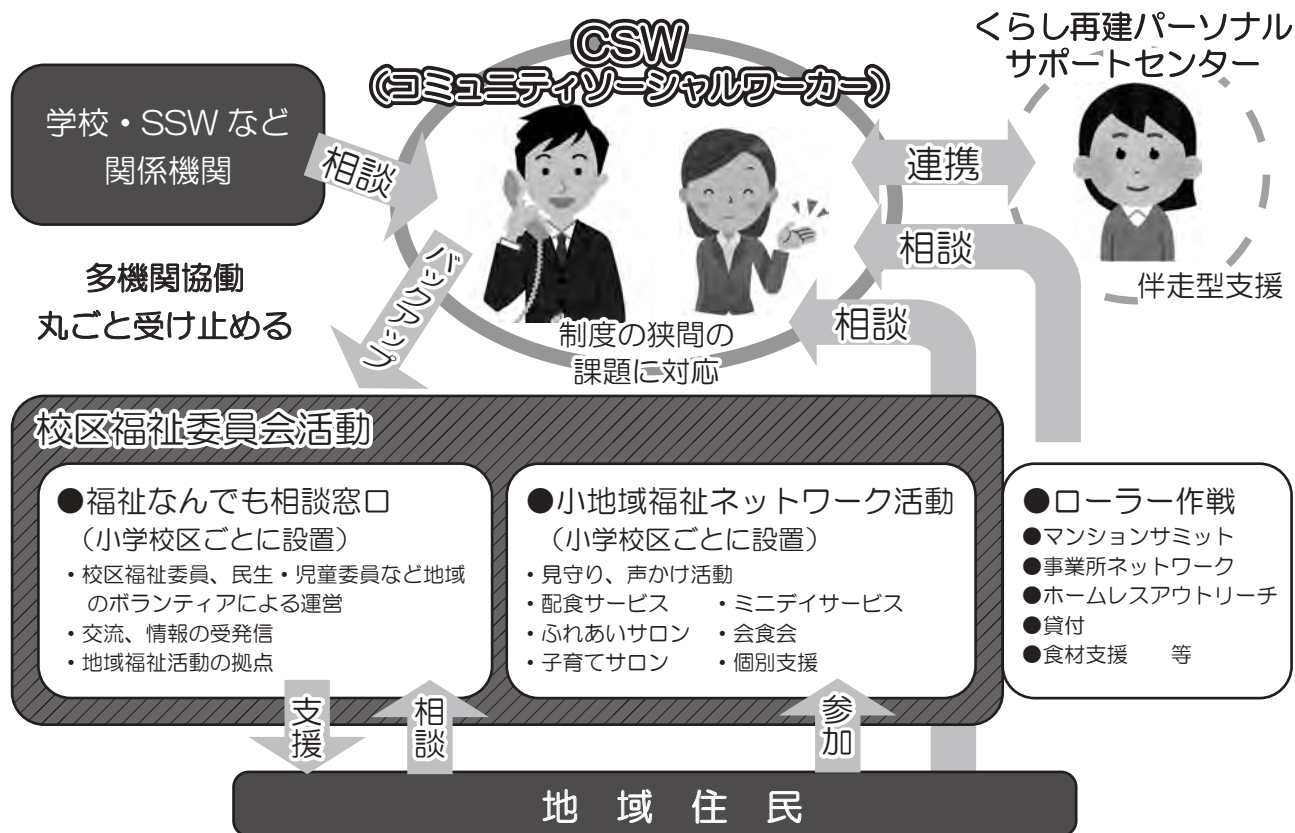


※本計画における小学校区とは、本市における義務教育学校設立以前の校区とします。また、南部圏域は3校（野田・島田・庄内）が合併しさくら学園になっていますが、活動は旧小学校区でおこなうことになっているため、旧小学校区の表記で掲載しています。

参考：小学校区・日常生活圏域



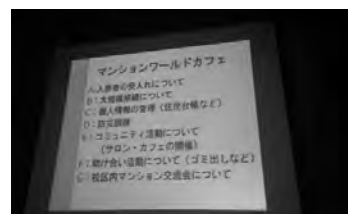
豊中市社会福祉協議会の取り組み（ニーズ把握）



福祉なんでも相談でスマホ相談会



小地域福祉ネットワーク活動（ふれあいサロン）



マンションサミット



主任児童委員とCSWで学校訪問



ホームレスへの調査



食材支援



◎ コミュニティソーシャルワーカーの役割は？ ◎

- ◆福祉なんでも相談窓口のバックアップ
 - ・社会的援護を要する人々への対応
 - ・複数機関の連携にサポートが必要なケース
 - ・公民協働でのサポートが必要なケース
 - ・地域との関係調整が必要なケース

◆地域福祉ネットワーク会議の運営

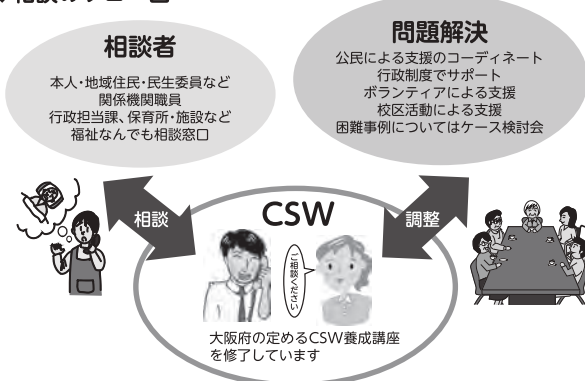
◆地域福祉計画の支援

◆セーフティネットの体制づくり

◆要援護者に対する見守りづくり

☆相談の中から必要に応じて伴走型の支援をしています

◆相談のフロー図

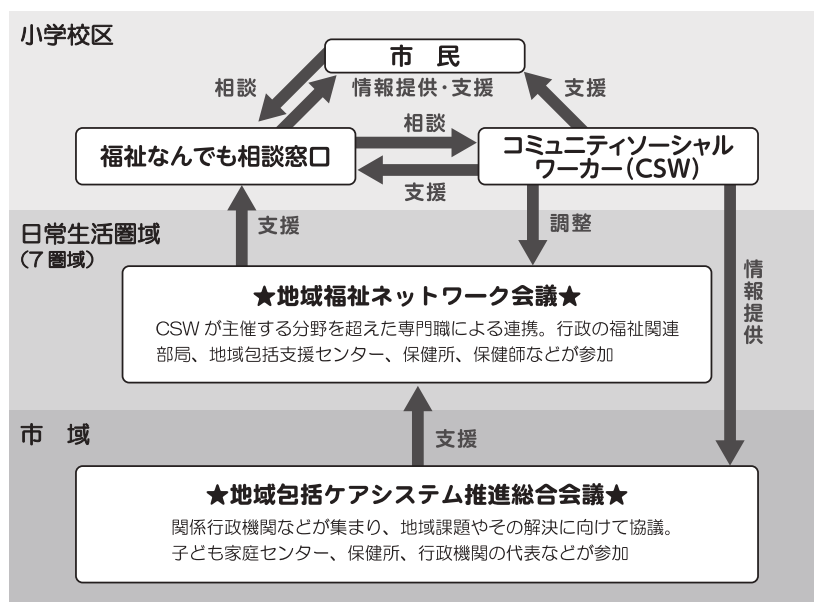


コミュニティソーシャルワーカーは地域包括支援センターと同じ7圏域ごとに配置されています。

制度の狭間のさまざまな相談を公民協働で解決するとともに、連携によるさまざまな支援プロジェクトを立ち上げてきました。

- ◆悪質リフォーム対策会議
- ◆徘徊 SOS メールプロジェクト
- ◆ひとり暮らし高齢者支援方策検討委員会
- ◆福祉ゴミ処理プロジェクト
- ◆高次脳機能障害家族交流会
- ◆若い家族介護者の交流会
- ◆男性家族介護者交流の集い
- ◆次世代人材育成プロジェクト
- ◆広汎性発達障害者の家族交流会
- ◆ケアマネジャーと地域福祉活動のガイドライン作成

◎ 豊中ライフセーフティネットの仕組み ◎



◎ 生活支援コーディネーターとは？ ◎

平成29年度より介護予防・日常生活支援総合事業がスタートし、豊中市では生活支援コーディネーターとして新たに地域のささえあいづくりを進めていく職員が配置されています。

市社協では、この事業の委託を受け、生活圏域ごとに1名、合計7名の生活支援コーディネーターを配置しました。（コミュニティソーシャルワーカーと兼務）

◎ 地域福祉活動支援センターとは？ ◎

地域福祉活動支援センターは、おおむね生活圏域ごとに1か所ずつ設置されています。

地域福祉活動支援センターの目的

① 地域福祉の担い手づくりの拠点

ボランティア講座、介護講座など各種講座の開催

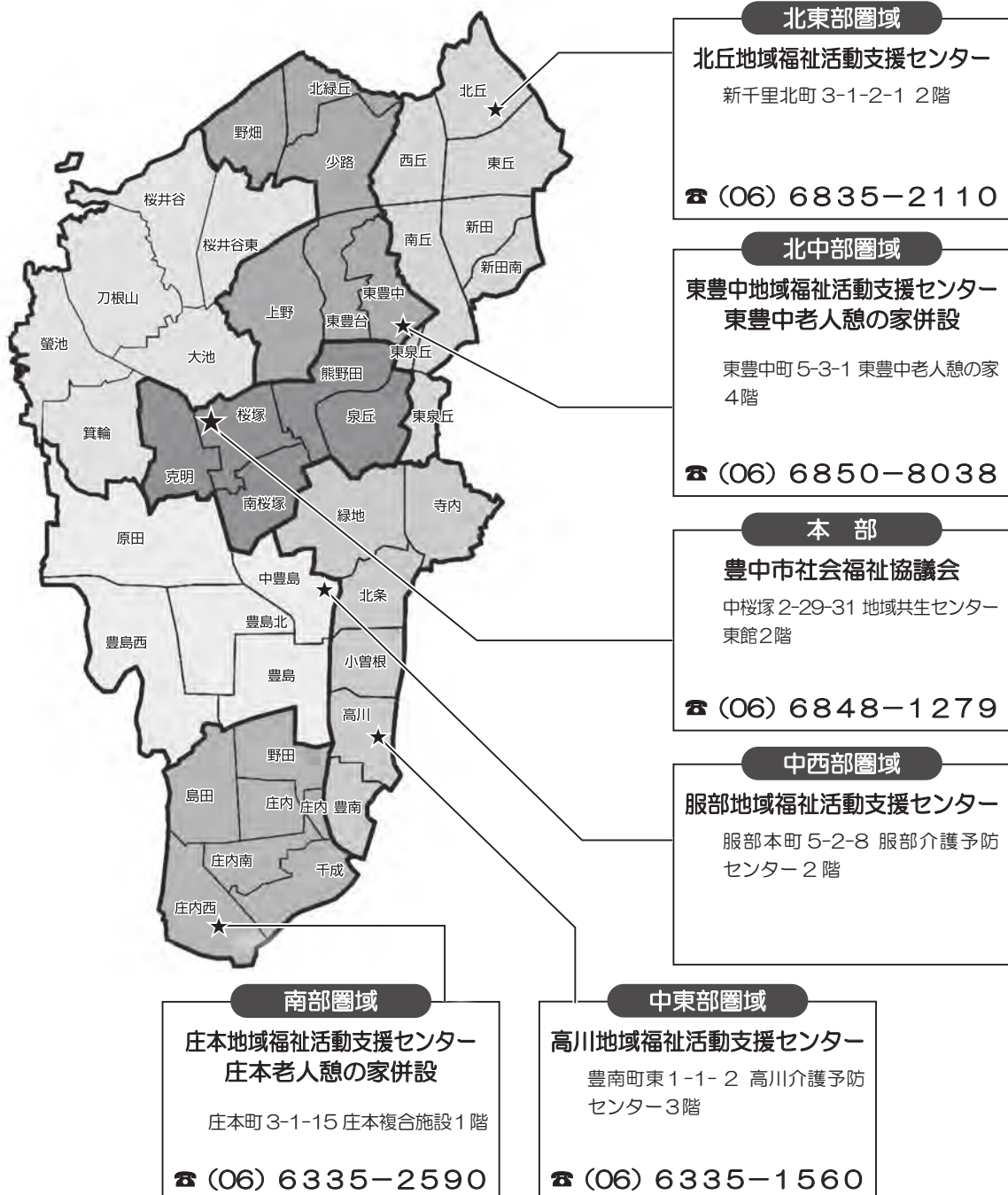
② ボランティア、地域活動の支援拠点

交流スペースの貸し出し、車いすの貸し出し

ボランティア相談窓口、校区活動との連携支援

③ 福祉なんでも相談窓口のバックアップ

各センターにコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置し、地域共生センターの市社協本部付きのCSWとともに支援や地域福祉ネットワーク会議等を開催し、ライフセーフティネットの構築を目指します。



地域福祉計画・地域福祉活動計画の変遷

第1期 平成16年(2004年)4月～平成21年(2009年)3月

地域福祉の活動拠点の確保 地域資源の活用・社会福祉施設の利用など
身近な相談窓口の仕組みづくり 福祉なんでも相談窓口
地域福祉ネットワーク会議
CSW の配置 4 圏域
行政と地域事業者のパートナーシップの構築
社協と連携し地域ニーズの把握
行政内部の連絡調整
職員研修(協働型職員の育成)



第2期 平成21年(2009年)4月～平成26年(2014年)3月

福祉公社と社会福祉協議会の統合
次世代人材育成
災害時要援護者支援体制
権利擁護体制の構築
地域福祉推進体制の充実(7 圏域にデイサービス内に地域福祉活動支援センター設置)
(仮称)健康福祉センターの整備 すこやかプラザの設置



第2・5期 平成24年(2012年)4月～平成26年(2014年)3月

地域福祉拠点の確保と情報発信機能の充実・福祉なんでも相談窓口の増設と相談員研修の充実
コミュニティソーシャルワーカーの積極的なPR、 行政・地域・事業者のパートナーシップの構築
地域福祉の人材と市民公益活動団体の育成、計画に関する調査研究
健康福祉サービス苦情調整委員会の設置



第3期 平成26年(2014年)4月～平成31年(2019年)3月

社会的孤立者・生活困窮者への支援
災害時要支援者対策
地域活性化と人づくりの推進



第4期 平成31年(2019年)4月～令和6年(2024年)3月

市民一人一人の地域服や福祉への意識、理解、行動を「拡げる」
豊中の多様な社会資源を「つなげる」
課題や不安を抱える人が必要な人・モノ・こと・地域と「つながる」
今よりもっと幸せになるための活動・仕組みを「持続発展させる」

2. これまでの推進状況

第4期地域福祉活動計画リンクプラン4の重点プロジェクト

① ひとりも取りこぼさない

小地域福祉ネットワークの推進・・・コロナ禍でも繋がり続ける工夫
 福祉なんでも相談窓口・・・福祉便利屋受付機能の付加・見守りローラー作戦
 防災・福祉ささえあいづくり推進事業・・・各校区のフローチャートの作成・一斉訓練
 マンションサミット交流会・・・無事ですシートの配布・手引きの配布
 多機関協働（早期発見の仕組み）・・・学校と福祉の連携プロジェクト
 高齢者見守りネットワーク活動の推進・・・参画団体の拡大



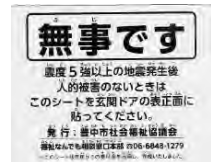
テイクアウト



全市一斉防災訓練



マンションサミット交流会



無事ですシート配布



ローラー作戦



福祉便利屋事業



見守りネットワーク



学校訪問

② 排除から包摂へ

コミュニティソーシャルワーカーの支援・・・ゴミ屋敷、ホームレス支援等
 福祉共育の推進・・・学校・地域・企業など
 公民協働の地域づくり・・・地域福祉ネットワーク会議によるグループワーク
 当事者の組織化・・・一歩の会・にじいろ・不登校の家族交流・オレンジカフェなど
 施設コンフリクトの解消・・・啓発・学習会の開催
 マイノリティの課題への対応・・・外国人支援プロジェクト・多文化共生ボランティアの募集



ホームレス支援



ゴミ屋敷支援



地域福祉ネットワーク会議



オレンジカフェ



外国人とのフットサル交流



多文化共生ボランティア講座



国ごとの交流会

③ すべての人に居場所と役割・多様な社会参加のプログラム

定年後の男性 豊中あぐり、福祉便利屋事業、多文化共生ボランティア 歌声広場
 ひきこもりの人たち 豊中びーのびーの、学習支援、福祉便利屋事業、壁面アートなど
 認知症、虚弱高齢者 オレンジカフェ、ぐんぐん元氣塾
 障害がある人 福祉の店「なかま」、阪大 & I カフェ、庄本マルシェなど
 子育て中の人 子育てサロン、公式グループライン
 こどもの居場所 子ども食堂学習支援、朝食、小さなアート展、リスタート事業



壁面アート



オレンジカフェ



小さなアート展



こども食堂の朝食

④ 支えられていた人が支える人に

生活困窮者自立支援
新たな担い手づくり
安心サポーター
福祉便利屋事業

- ・・・コロナ特例貸付 15,000 件以上 外国人、若年層の相談増
- ・・・福祉お針箱、高学歴引きこもり、歌声広場、フードドライブ等
- ・・・校区単位にアンケート実施
- ・・・定年後の人たちが支える人に



コロナ特例貸付の現場



福祉お針箱



学習支援



アンケート実施



多文化共生ボランティア (タブラ)



フードドライブ



うたごえ広場



ささえ愛ポイント研修会

⑤ 新たな担い手の醸成

福祉共育
ボランティアセンターの推進
とよなか地域ささえ愛ポイント事業
安心サポーター
市役所職員協働型職員

- ・・・子ども広報委員、福祉すごろく 15 歳からの社会保障
- ・・・災害支援、多文化共生、子ども支援、「うたごえ広場」のボランティア組織化
- ・・・拡大
- ・・・福祉お針箱の組織化
- ・・・市役所職員、社会福祉法人職員のボランティア募集



子ども広報委員



福祉すごろく



災害ボランティア



社会福祉法人職員ボランティア

⑥ 権利擁護体制の構築

地域での権利擁護
施設での権利擁護
日常生活自立支援事業
法人・市民後見推進
後見サポートセンターの受託
死後委任事務・保証人

・・・小地域ネットワーク・福祉なんでも相談
・・・介護相談員派遣事情、ボランティア派遣
・・・待機者の解決、福祉事務所との連携、府への要望
・・・研修、相談、チーム作り
・・・他市視察検討



介護サービス相談員派遣



権利擁護研修会



意思決定支援研修



個別相談会

⑦ パートナーシップで目標を達成

協議体(第一層、第二層、第三層)・・・協議体で事業創出

地域福祉ネットワーク会議・・・ケースメソッドなどによる支え合い

社会福祉法人の社会貢献・・・宅食、サンタ事業、被災地支援、コロナワクチン接種会、社会貢献事業(生活困窮者レスキュー事業)

民間企業との連携・・・フードドライブ・移動販売、出前広場、就労支援、大阪万博弁当

ビーの×マルシェ



宅食サンタ



コロナワクチン接種会



フードドライブ



出張マルシェ

⑧ 安定的な財源づくり

賛助会費

・・・ネットでの振り込み、広報紙への振込用紙添付、企業団体への呼びかけ

目的型募金

・・・「コロナに負けるな」困窮者支援募金、善意銀行目的募金

ふるさと納税との連携

・・・豊中あぐりの野菜を使った返礼品

共同募金の普及

・・・共同募金の寄付付き商品の実施



コロナに負けるなキャンペーン



ふるさと納税返礼品



寄付付き商品

⑨ 新たな課題への対応 …地域共生推進員の設置

学校と福祉の連携プロジェクト

不登校支援リスタートスクール 学習支援・動画編集・プログラミング
デジタルアニメ

8050 丸ごと支援プロジェクト

外国人支援と福祉の連携プロジェクト

ヤングケアラー対策 子育て支援プロジェクト



学校と福祉の連携ガイド



事例集発行



主任児童委員と学校訪問



学習支援



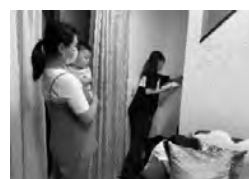
動画編集



壁面アート



デジタルアニメ



エンゼルヘルパー派遣
(イメージ)

3. 地域福祉を取り巻く状況と課題

◎令和4年度に豊中市が実施した市民意識調査、令和5年度実施の団体ヒアリング、地域福祉ネットワーク会議などにより5つの課題が浮かび上がりました。

(1) 社会的孤立の増大

- ・孤立感がある人は4割程度を占め、特に男性、単身者で何らかの支援などを受けている人が孤独感を感じていることが多い
- ・住み慣れた地域で自分らしく生きていると思える人は8割を超え、特に高齢者で多い
- ・男性(18歳から64歳)は孤独感が常にある人はSOSを出せない人が多い
- ・SOSを出せない理由についてその傾向が強い男性は「相手がいない」「他人に知られたくない」「恥ずかしい」が理由として多い
- ・不安を抱えていても適切な相談窓口、相談機能を知らない
- ・8050問題、ひきこもり、不登校の増大。プライバシーもありアプローチが難しい
- ・生きづらさを抱えている人、外国にルーツのある人も増えている

(2) 地域のつながりがコロナ禍もあり減少 つながりの少ない人はSOSが出せない

- ・近所付き合いの状況は変わらないが、依然として若年層で近所づきあいは希薄化
- ・地域活動への参加率は減少傾向。特に自治会、防災、高齢者福祉については高齢者の参加が多い
- ・自治会の参加率は高齢者は5割を超えるが、30歳以下は2割程度、自治会があるかわからない人も5割以上を占める
- ・マンション・集合住宅の増大、集合住宅で管理組合はあるが、自治会を作らないところが増加

(3) 地域活動には関心があるが機会がない

- ・関心層を地域活動につなげるには「地域活動に関する情報提供の充実」「興味がある活動・気軽に参加できる活動の創出」が必要
- ・外国人市民がやってみたい活動は「外国人を支援する活動」「一緒に街のために活動すること」「通訳翻訳」等
- ・定年後男性(男女機会均等法世代以降は女性も含む)や外国人市民については地域での活躍につなぐことが大切
キーワードは「生産性」「役割」「社会貢献」
- ・認知症高齢者が活躍できる機会・出番・役割の創出
- ・自治会や老人クラブなどは加入率が減少傾向であるが、社協ボランティアや有償ボランティア、とよなか地域ささえ愛ポイントの登録者や市民公益活動団体は増加傾向にある

(4) 孤独感が強い人を中心に居場所やつながりへのニーズが高い

- ・居場所がある人は4割。居場所を希望する人も3割を超える。さらに孤立感のある人は居場所を求める人が5割を占める
- ・外国人市民では地域の人たちと交流したい人の割合が7割
- ・子ども食堂や子どもの居場所の増大。本当に必要な子どもには届きにくい

(5) コロナ禍で明らかになった様々な課題

- ・若年層の不安定就労層(子育て世帯の貧困化)
- ・居住支援(身寄り問題・単身者世帯の増大・ゴミ屋敷・死後事務委任・ホームレス等)の課題
- ・コロナ特例貸付の支援継続
- ・外国にルーツのある人たちの増大と支援
- ・フードバンクの有効性

4. 第5期地域福祉活動計画(Link プラン5)の基本的な考え方

第5期地域福祉活動計画 誰ひとり取り残さない地域共生社会の実現

共通基本理念

みんなで創る 希望を実現するための 多様な選択ができるまち

共通基本目標

- ① 包括的、継続的な支援体制の整備・強化
- ② 安全・安心で活気あふれる地域づくり
- ③ 地域福祉の持続可能性の向上

計画期間

第5期として6年間

令和6年(2024年)4月～令和12年(2030年)3月

●基本コンセプト●

地域共生社会の実現に向けて～すべての人に居場所と役割～

▼重点課題▼

- ① ひとりも取りこぼさない
- ② 持続可能な地域づくり
- ③ すべての人に居場所と役割・多様な社会参加のプログラム
- ④ 支えられていた人が支え手になる
- ⑤ 新たな担い手の醸成
- ⑥ 福祉共育の推進
- ⑦ 権利擁護体制の構築
- ⑧ パートナースhipで目標達成
- ⑨ 安定的な財源づくり
- ⑩ コロナ禍で見えた新たな課題への対応

第5期地域福祉活動計画(Linkプラン5)の重点プロジェクトの推進の視点

	2024 年 度	2025 年 度	2026 年 度	2027 年 度	2028 年 度	2029 年 度
① ひとりも取りこぼさない						
・小地域福祉ネットワーク			充実			
・福祉なんでも相談			継続			
・見守りローラー作戦			拡充			
・マンションサミット			拡充			
・多機関協働（早期発見の仕組み）			啓発充実			
・企業の見守りネットワーク			啓発充実			
② 持続可能な地域づくり						
・小学校区の再編についての対応			充実			
・社会福祉施設の社会貢献			拡充			
・防災・福祉ささえあいづくり推進事業			拡充			
・新たな担い手の醸成と連携			拡充			
③ すべての人に居場所と役割・多様な社会参加のプログラム						
・定年後の男性			拡充			
・引きこもりの人たち			充実			
・認知症・虚弱高齢者			拡充			
・障害がある人			拡充			
・子育て中の人			充実			
・子どもの居場所			拡充			
④ 支えられていた人が支え手になる						
・生活困窮者自立支援を通じての支援者づくり			継続			
・新たな担い手づくり			充実			
・安心サポーター			拡充			

	2024 年 度	2025 年 度	2026 年 度	2027 年 度	2028 年 度	2029 年 度
⑤ 新たな担い手の醸成						
・ボランティアセンターの機能強化		検討				
・校区ボランティア（窓口）センターの明確化と情報発信		検討				
・安心サポーター			拡充			
⑥ 福祉共育の推進						
・福祉協力校の実施		検討				
・15 歳から社会保障			拡充			
・福祉共育・ボランティア体験学習の推進			拡充			
・こども福祉委員・こども広報委員の設置			拡充			
・排除から包摂へ マイノリティの課題への対応（外国人・LGBT）		啓発検討				
⑦ 権利擁護体制の構築						
・地域での権利擁護			拡充			
・施設での権利擁護			拡充			
・日常生活自立支援事業			継続			
・法人・市民後見			拡充			
・後見サポートセンター			充実			
・死後委任事務・保証人		検討				
⑧ パートナリシップで目標達成						
・協議体（第一層・第二層・第三層）			継続			
・地域福祉ネットワーク会議			継続			
・社会福祉法人の社会貢献			拡充			
・民間企業との協働（フードドライブ・リユース・移動販売・就労支援など）			拡充			
・生活支援コーディネーターによる新しい支えあいのしくみづくり			充実			
・多機関協働（出口づくり）			充実			
・びーの×マルシェ等（多様な主体との協働事業）			継続			

	2024 年 度	2025 年 度	2026 年 度	2027 年 度	2028 年 度	2029 年 度
⑨ 安定的な財源づくり						
・ 賛助会費			啓発充実			
・ 目的型の募金（善意銀行）			啓発充実			
・ ふるさと納税との連携			充実			
・ クラウドファンディング		検討				
・ 共同募金の普及…共同募金自動販売機の推進・寄付つき商品等			啓発充実			
⑩ コロナ禍で見えた新たな課題への対応						
・ コロナ特例貸付対象者へのフォロー			継続			
・ 外国人支援			充実			
・ 不登校・子ども若者支援			拡充			
・ 食のアウトリーチと子ども支援			拡充			
・ フードバンクを通じたつながりづくり			拡充			

5. 人材育成の10のチャレンジ 楽しいことからつながる福祉活動へ

＜考え方＞	支える人と支えられる人を固定化しない	ひとり一役
	気持ちのある人をどう発掘するのか	個人へのアプローチ
	地域住民が少しずつ参加していく	多様な参加のしくみ
	福祉共育	子どもたちが個人で地域活動に どう参加できるか
	マンションへの働きかけ	
	定年退職者が増える 健康寿命を延ばす 団塊世代への多様なプログラム	

10のチャレンジ

- ① **男性の社会参加 あぐり → 土地確保・小学校の協力**
定年後の男性及び男女雇用機会均等法世代の女性も定年に新たなプログラムを
- ② **こども福祉委員・こども広報委員募集**
個人を対象に福祉活動に関心が持てる子供たちを募集し、参加を求める
- ③ **こどもの居場所づくり 不登校・保護者との繋がり**
こどもたちの居場所づくりを保護者世代と協働で進めていく
- ④ **オレンジカフェ 介護者の支援の小さなつながりを多様に**
認知症の家族、男性介護者を地元密着で支え合いの輪を作っていく
- ⑤ **マンションの防災協力員制度 マンションサミット交流会からネットワークへ**
マンションの管理組合との連携で防災や見守り活動を推進していく
- ⑥ **社会福祉法人の福祉委員会への参加 業として参加する人との協働**
街角なんでも相談窓口の設置 薬局、福祉施設、商店など
- ⑦ **校区ボランティア募集の方法の工夫 福祉なんでも相談・LINE・SNS・アンケート**
福祉委員や役員という形だけでなく多様なボランティアの募集を
- ⑧ **全市で募集して（ボランティアセンター）地域へ返していく機能の強化**
ボランティアセンターの機能強化で人材の参加を促し、地域活動へつなぐ
- ⑨ **校区ホームページの充実 1DAY ボランティア募集・LINE・QR コードなどを活用する
発信機能の研究**
- ⑩ **外国人支援ボランティアの募集 学生・会社員・定年後・帰国子女など**
外国人の支援を通じて多様な人材確保

校区福祉委員会

次世代担い手をつなぐための アクションプラン

01	大池
02	刀根山
03	桜井谷
04	蛍池
05	箕輪
06	野畑
07	上野
08	少路
09	北緑丘
10	東豊中
11	東豊台
12	上新田
13	東丘
14	西丘
15	南丘
16	北丘
17	東泉丘
18	桜塚
19	南桜塚
20	克明

21	熊野田
22	泉丘
23	緑地
24	北条
25	小曾根
26	寺内
27	豊南
28	高川
29	原田
30	中豊島
31	豊島北
32	豊島西
33	豊島
34	庄内
35	島田
36	野田
37	庄内西
38	庄内南
39	千成

01 大 池

6年後の重点目標

校区あぐりで新たなボランティアを発掘し、絆を深めよう
こども広報委員に、地域の活動を知ってもらおう

目標のための主な取り組み

- ・校区あぐりの実施
- ・小学校・こども園等に協力を依頼し、あぐりの見学や祭事に参加してもらう

現状と課題

大池地区は校区福祉委員会・民生児童委員会など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。校区(地区)内にある多様な事業所との協力関係も良く、福祉委員会活動(イベント)を積極的に協働して行っている。

一軒家の住民の高齢化が進む一方で、マンションが増え、若い世帯の転入が増加し、高齢化率が低下した。校区内で、高齢化が進む地域と若い世帯が多い地域と二極化している。

地域のボランティアを担う新たな若い人材をいかに発掘するかが課題である。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいティサロン 子育てサロンどんぐり ふれあい給食会（ひとり暮らし対象）
世代間交流（大池万博、よっといでフェスティバル、新年お楽しみ会）
見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）
- ・（通所型）ぐんぐん元気塾



大池小学校区 概要（令和5年4月1日）

人口	14,315人	65歳以上 単独世帯数	1,214世帯	要支援・ 要介護者認定数	806人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	160人
世帯数	6,925世帯	独居高齢者 登録者数	209人	要支援・ 要介護率	22.0%	小学校児童数	746人
高齢者人口	3,667人	独居登録率	17.2%	在留外国人人口	168人	登録自治会数	10会
高齢化率	25.6%	ひとり暮らし 老人の会	さつき会			加入世帯数	3,177世帯 (45.9%)

02 刀根山

6年後の重点目標

刀根山校区福祉委員会として活動を楽しく取り組み、次世代の人材を育てていく

目標のための主な取り組み

- ・福祉委員自身が福祉委員会の福祉活動を楽しく取り組めるようにする。
- ・事業(企画)が、住民の参加者にとってわくわくするもの、ニーズにマッチングするなど、有意義に感じていただけるよう、事業の内容を検討し、広報活動も工夫していく。
- ・福祉活動をしたいと思えるよう、参加住民が楽しく喜んで参加している姿を知らせ、校区の中から福祉活動の担い手を育てていく。

現状と課題

刀根山校区福祉委員会は、校区(地区内)の各団体や多様な事業所と協力し、各種イベントを積極的に行なってきた。転出・転入が多く、昔から地域で暮らす住民の中で独居高齢者が増加する一方で、住宅の建て替えが進み、新しい子育て世帯が転入してきている地域もある。しかし児童数は減少してきており、また外国籍の住民が増加している。自治会の数、加入者数は減少し、地域との繋がりが少なくなっている住民もいる。課題を抱える子どもたち(若い世代)が校区内には存在している。子どもたちに対する取り組みが必要とされる時には、刀根山校区福祉委員会も協力団体の一員として活動していく。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動(グループ援助活動・個別援助活動)

- ・ふれあいサロン ・なかよしクラブ「ひよこちゃん」
- ・くひとり暮らし高齢者対象>ヨガ教室、ほっと、食事サービス活動(お弁当のテイクアウト)
- ・おかえりアットホーム刀根山

○敬老の集い

○春の音楽祭

○福祉なんでも相談窓口(スマホ相談会、ローラー作戦 含む)

○住民主体ささえあい活動

- ・(訪問型)福祉便利屋事業(コーディネーター設置)
- ・(通所型)ぐんぐん元気塾

○移動販売(刀根山美豊苑)

○送迎サービス(かがやき号)



2月の定例会の様子

刀根山小学校区 概要(令和5年4月1日)

人口	14,901人	65歳以上 単独世帯数	1,184世帯	要支援・ 要介護者認定数	753人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	223人
世帯数	7,272世帯	独居高齢者 登録者数	164人	要支援・ 要介護率	20.2%	小学校児童数	730人
高齢者人口	3,730人	独居登録率	13.9%	在留外国人人口	520人	登録自治会数	21会
高齢化率	25.0%			※桜井谷地区と按分エリアあり		加入世帯数	2,109世帯 (29.0%)

03 桜井谷

6年後の重点目標

子ども広報委員に、地域の活動について知ってもらい、広めてもらおう

目標のための主な取り組み

- ・毎年3学期に小学4年生の「福祉を学ぼう」という授業に、福祉委員会が協力しているので、その流れで、希望する小学生に実際に地域の活動に取材に来ていただき、広報していただく
- ・毎年第二中学校の生徒が夏休みに子育てサロンに参加しているので、その流れで広報していただく

現状と課題

桜井谷校区は校区福祉委員会・民生児童委員会・自治協議会・自主防など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。校区(地区)内にある多様な事業所との協力関係も良く、各種イベントを積極的に協働して行っている。

桜井谷校区は坂が多く、買い物ができる場所が少ない。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロンさくらんぼ 子育てサロンこひつじ柴原・こひつじ少路

食事会（ひとり暮らし老人の会対象） 世代間交流

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（啓発・受付）
- ・（通所型）ぐんぐん元気塾



桜井谷小学校区 概要（令和5年4月1日）

人口	11,289人	65歳以上 単独世帯数	746世帯	要支援・ 要介護者認定数	542人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	164人
世帯数	5,261世帯	独居高齢者 登録者数	109人	要支援・ 要介護率	21.3%	小学校児童数	630人
高齢者人口	2,541人	独居登録率	14.6%	在留外国人人口	416人	登録自治会数	8会
高齢化率	22.5%	ひとり暮らし 老人の会	桜の会	※刀根山校区と按分エリアあり		加入世帯数	1,128世帯 (21.4%)

桜井谷東小学校区 概要（令和5年4月1日）

人口	15,109人	65歳以上 単独世帯数	788世帯	要支援・ 要介護者認定数	533人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	166人
世帯数	6,317世帯	独居高齢者 登録者数	94人	要支援・ 要介護率	19.7%	小学校児童数	1,249人
高齢者人口	2,709人	独居登録率	11.9%	在留外国人人口	167人	登録自治会数	6会
高齢化率	17.9%	ひとり暮らし 老人の会	桜の会	※上野校区と按分エリアあり		加入世帯数	946世帯 (15.0%)

04 蛭池

6年後の重点目標

校区ボランティアの担い手を増やし、地域活動をより活発にしよう

目標のための主な取り組み

- ・校区ボランティアの担い手を増やすために、広報する
- ・なんでも相談を広報して、たくさんの方に知っていただき、どこに相談すればよいか分からない方に、相談窓口を紹介する

現状と課題

蛭池校区は校区福祉委員会・民生児童委員会・自治協議会・自主防など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。校区(地区)内にある多様な事業所との協力関係も良く、各種イベントを積極的に協働して行っている。

蛭池校区は子ども食堂、外国人も多い。

自治会の数は市内で一番多いが、以前よりも会の数・加入者が減っている。

次のボランティアの担い手が見つからないのが課題。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン 子育てサロンすくすく 会食（ひとり暮らし老人の会対象）

世代間交流（夏休み工作教室、むかし遊び）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（啓発・受付）
- ・（通所型）ぐんぐん元気塾



蛭池小学校区 概要（令和5年4月1日）

人口	10,314 人	65 歳以上 単独世帯数	1,064 世帯	要支援・ 要介護者認定数	586 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	217 人
世帯数	5,938 世帯	独居高齢者 登録者数	104 人	要支援・ 要介護率	21.7%	小学校児童数	360 人
高齢者人口	2,695 人	独居登録率	9.8%	在留外国人人口	293 人	登録自治会数	22 会
高齢化率	26.1%	ひとり暮らし 老人の会	桜の会			加入世帯数	1,814 世帯 (30.5%)

05 箕 輪

6年後の重点目標

ローラー作戦を実施し、地域の困りごとを発見しよう
マンション防災協力員を募集して、防災に強い地域をみんなで作ろう

目標のための主な取り組み

- ・ローラー作戦を実施する（まずは立花町3丁目で実施）
- ・防災をきっかけにマンション管理組合と繋がり、マンション防災協力員を募ろう。

現状と課題

箕輪校区は校区福祉委員会・民生児童委員会など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。校区(地区)内にある多様な事業所との協力関係も良く、各種イベントを積極的に協働して行っている。

校区の活動拠点が学校以外にないことが課題。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン 子育てサロンうさぎちゃん 会食（ひとり暮らし老人の会対象）
世代間交流

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐん元気塾



箕輪小学校区 概要（令和5年4月1日）

人口	7,415人	65歳以上 単独世帯数	755世帯	要支援・ 要介護者認定数	447人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	125人
世帯数	3,770世帯	独居高齢者 登録者数	127人	要支援・ 要介護率	23.0%	小学校児童数	314人
高齢者人口	1,944人	独居登録率	16.8%	在留外国人人口	153人	登録自治会数	5会
高齢化率	26.2%	ひとり暮らし 老人の会	若松会			加入世帯数	1,250世帯 (33.2%)

6年後の重点目標

担い手を増やすとともに今よりさらに結びつきの強い地域づくり

目標のための主な取り組み

- ・校区あぐりの充実
- ・マンション防災協力員の拡大

現状と課題

野畑校区は市の北端に位置し、旧箕面街道を挟んで西側の永楽荘エリアは戸建て住宅中心、東側の春日町、向丘エリアは、府営、市営の公営住宅を中心に多くの集合住宅と戸建て住宅が混在している。校区内は市内を南北に結ぶ2本のバス路線が走るが、校区内の移動は徒歩か自転車に頼ることになるが、特徴として坂道が多いので、移動が簡単でない。

高齢化率は平均程度で、永楽荘エリアに限れば、もっと高率になる。老老介護の高齢者世帯が多い印象で、坂道が多いため、外出、買い物等不便が多く、生活支援に関する相談も多い。老人会活動はあるが、役員の高齢化で、継続に課題がある。いっぽう、図書館、小学校のある東側は子育て世帯にとっては魅力で、実際空き家となっていたところに若い家族も多く入ってきているが、このエリアには自治会がなく、つながりは薄い。校区全体としての自治会数は多く、避難行動要支援者の安否確認事業への協力体制もあるが、小さいマンション内は情報が入りにくい。

校区活動の拠点である市営向丘住宅集会所では、ぐんぐん元気塾、ふれあいサロンを実施し、男性ボランティアを中心とした校区あぐり事業をはじめ、子育てサロン、「みんなの食堂」も小学校で実施するなど、小学校の協力体制も強い。しかし、2つの拠点ともに、東側の端にあるため、高齢者にとっては、坂道の多い校区内の遠くから参加するには課題がある。

同時に、大きなスーパーマーケットがなく、買い物困難さの解消の一助として、サロン実施時にあわせてコープの移動販売車を導入している。西側を視野に入れた新たな地域活動の拠点作りや外出支援が課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（向丘サロン）、子育てサロン（こんぺいとう）、会食会（ひとり暮らし老人の会対象）
世代間交流（地域こども教室）、見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い ○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（啓発・受付）
- ・（通所型）ぐんぐん元気塾

○こどもの居場所づくり（みんなの食堂）



野畑小学校区 概要

人口	11,715 人	65 歳以上 単独世帯数	903 世帯	要支援・ 要介護者認定数	638 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	237 人
世帯数	5,188 世帯	独居高齢者 登録者数	190 人	要支援・ 要介護率	21.5%	小学校児童数	664 人
高齢者人口	2,962 人	独居登録率	21.0%	在留外国人人口	129 人	登録自治会数	17 会
高齢化率	25.3%	ひとり暮らし 老人の会	薫会			加入世帯数	1,639 世帯 (31.6%)

6年後の重点目標

新たな人材を発掘。誰もがつながりをもって安心して暮らせる街づくり

目標のための主な取り組み

- ・マンション防災協力員・交流会
- ・外国人支援ボランティアの取り組み

現状と課題

上野校区は市の中北部に位置する市内で3番目に面積の広い校区である。閑静な住宅街が大部分を占めていて、大規模な集合住宅群はない。小学校児童数は1,000人を超えるマンモス校で、校区内に豊中高校や梅花高校を有する文教地区の様相がある。その影響もあるのか、若い家族の世帯も多く、高齢化率は市内平均を下回っている。

地域活動拠点の堀田会館では、校区内の住民だれもが利用できるティーサロンや上野げんき体操、おれんじカフェを実施している。広報紙発行のたびに記事掲載し啓発につとめている福祉便利屋事業は、広く住民に浸透しつつある。上野東2丁目にある高齢者施設でも、住民の通いの場としてパワーアップ体操や出前市場を開催し、住民誰もが参加できる場を提供している。また、校区内では外国語ができる人材も多く見受けられる。堀田会館は校区内のおよそ中心少し南の地点に位置しているものの、そもそも校区面積が広いため、活動参加に遠い人がいる。特に上野西4丁目、校区北端の上野坂エリアの住民にとっては拠点まで距離があり、参加しにくいのが課題。自治会が少なく、校区の特徴でもある住民間の付き合いの希薄さから、困りごとを他人には見せず、問題が外からは気付きにくい傾向があり、マンションでは孤独死の問題も出てきている。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

- ふれあいサロン、子育てサロン（ほっとるーむひよこちゃん）
- 会食会（ひとり暮らし老人の会対象）、おれんじカフェ（ひだまりカフェ）
- 世代間交流（いきいき上野フェスティバル、上野まつり、芋ほり）
- 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）
- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾

○こどもの居場所づくり（みんなの居場所）学習支援・遊びの場への協力



上野小学校区 概要

人口	16,764人	65歳以上 単独世帯数	1,111世帯	要支援・ 要介護者認定数	823人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	257人
世帯数	6,398世帯	独居高齢者 登録者数	143人	要支援・ 要介護率	20.9%	小学校児童数	1,123人
高齢者人口	3,939人	独居登録率	12.9%	在留外国人人口	181人	登録自治会数	3会
高齢化率	23.5%	ひとり暮らし 老人の会	卯の花会	※桜井谷東校区と按分エリアあり		加入世帯数	2,372世帯 (34.2%)

6年後の重点目標

ICT を活用し新たな人材を発掘し福祉への参加促進を図る

目標のための主な取り組み

- ・ 校区ボランティアセンター機能（LINE を利用した福祉委員、子ども広報委員などの募集）
- ・ マンション防災協力員を拡大（災害訓練等に協力してもらえるマンションを増やす）

現状と課題

少路校区は市の北端に位置しており、東側の閑静な住宅街エリアと西側の戸建て、比較的大きなマンションの混在エリアとで構成されている。西側には府営住宅もある。中心部には大型ショッピングセンターや大きなスーパーマーケットがあり、モノレール少路駅周辺には医療機関も多く、生活する上での資源に恵まれている。子育て世帯が多く住み、校区としての高齢化率は低い。

校区の活動拠点は緑丘会館で、ぐんぐん元気塾やふれあいサロン、独居の会の食事会に使用している。子育てサロンは民間こども園の協力で会場提供を受けている。LINE やオンラインを活用した運営を取り入れ、時代に即した活動内容で子育てサロンは特に人気が高く、参加者が多い。福祉便利屋事業は校区内の大規模マンションの住民用手引きにも掲載されるなど、定着しているが、新たなサポーター探しも必要。また、小学校のPTA 活動がなく、今後の福祉委員の担い手の不安がある。

緑丘会館は校区内ほぼ中心に位置しているものの、周辺住宅地は坂道が多く、高齢者にとって移動の困難があるため、ボランティアグループによる車での送迎支援を取り入れている。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（ブルーメ）、子育てサロン（ほっとるーむひよこちゃん）

会食会（ひとり暮らし老人の会対象）、配食（ふれあい配食）

世代間交流（グランドゴルフ、昔あそび） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）
- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾



少路小学校区 概要

人口	11,695 人	65 歳以上 単独世帯数	647 世帯	要支援・ 要介護者認定数	451 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	134 人
世帯数	4,613 世帯	独居高齢者 登録者数	92 人	要支援・ 要介護率	17.9%	小学校児童数	752 人
高齢者人口	2,522 人	独居登録率	14.2%	在留外国人人口	211 人	登録自治会数	5 会
高齢化率	21.6%	ひとり暮らし 老人の会	すみれ会	※北緑丘校区と按分エリアあり		加入世帯数	1,271 世帯 (27.6%)

09 北緑丘

6年後の重点目標

小学校と連携したこどもたち、高齢者の居場所づくりへの取り組みを通じ、福祉への参加促進を図る

目標のための主な取り組み

- ・地域連携ステーション事業の取り組みを通じて、PTA、公民分館、健全育成会など地域団体とのつながりを深め、新しいボランティア人材の発掘を図る。
- ・校区福祉委員会の活動の紹介、およびボランティア活動の体験参加を呼びかけ、人材の発掘を図る。

現状と課題

北緑丘地区は市の北端部に位置し、市内で最も面積の小さな小学校区である。地域の大部分は集合住宅 24 棟の北緑丘団地と中層集合住宅 39 棟の千里緑丘住宅、戸建て住宅中心の西緑丘 3 丁目からなる。自衛隊跡地の再開発により、大規模な高齢者レジデンスと戸建て住宅 120 戸が完成、戸建て住宅には子育て世帯が入居して、児童数が大幅に増加している。

校区福祉委員会は平成 31 年(2019 年)4 月に少路校区から独立して単独の活動を始めているが、地域での校区福祉委員会の知名度は低い。

活動拠点が団地内の集会所と小学校であることから、どうしても活動参加者が団地住民中心になってしまう傾向があるが、道を隔てた西緑丘 3 丁目エリアの住民が置き去りにならないようミニサロンを開いている。

配食活動を積極的に展開しているが、その分スタッフの確保が求められ、担い手探しが課題となっている。

なんでも相談の連絡先を小学校のボランティア募集のための学校地域連携ステーションに位置づけ、校区福祉委員会活動の知名度アップ啓発と新しい人材掘り起こしを図っている。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動(グループ援助活動・個別援助活動)

- ・ふれあいサロン(サタデーフォー・西緑丘ミニサロン)・子育てサロン(ふたば北緑丘)
- ・ふれあい配食(70 才以上のひとり暮らし又はご夫婦世帯)
- ・昼食会(ひとり暮らし老人の会会員対象)

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

偶数月にスマホ相談会を開催

○住民主体ささえあい活動

- ・(訪問型)福祉便利屋事業(コーディネーター設置)
- ・(通所型)ぐんぐん元気塾



北緑丘小学校区 概要

人口	7,126 人	65 歳以上 単独世帯数	674 世帯	要支援・ 要介護者認定数	392 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	115 人
世帯数	3,358 世帯	独居高齢者 登録者数	106 人	要支援・ 要介護率	16.6%	小学校児童数	382 人
高齢者人口	2,364 人	独居登録率	15.7%	在留外国人人口	69 人	登録自治会数	5 会
高齢化率	33.2%	ひとり暮らし 老人の会	すみれ会	※少路校区と按分エリアあり		加入世帯数	796 世帯 (23.7%)

10 東豊中

6年後の重点目標

地域で暮らす若い世代、子どもたち、外国人との世代を超えたつながり作り

目標のための主な取り組み

- ・PTA や公民分館、自治会等と連携して、各団体が実施している行事やイベントを聞き取り、子育て世代、外国人、子どもたちが一緒に参加できるイベントを探る。他団体と協調してできるイベントがあれば一緒に取り組む。

現状と課題

東豊中地区は東西に走るバス通りを挟んで、北側の戸建て住宅地域と南側の集合住宅地域にはっきりと分かれている。校区の活動拠点も含めて公的施設は南部地域に集中している。集合住宅は民間大型マンションが一棟ある以外はほぼすべてが古くからある公営団地で、特に昭和50年に建築された第2団地は住民の8割以上が高齢者であるというデータがあるくらい、高齢化が激しい。団地にはエレベーターがないので、ゴミ出しや荷物の運搬に困る高齢者が少なからずいることが想像されるし、今後もますます増えるだろう。

校区福祉委員の高齢化で後継者が必要との思いは切実だが、新しい担い手の掘り起こしが進まないのが実情。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（友垣・おしゃべりサロン花水木・コミュニティ） 子育てサロン（ぴよぴよ）
食事会（校区内65才以上の方対象） 世代間交流（1年生と昔の遊び、3年生と昔のくらし）
見守り声かけ活動（きさらぎ会お元気コール）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

- ・喫茶ゆうゆう同時開催

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾



東豊中小学校区 概要

人口	8,114人	65歳以上 単独世帯数	734世帯	要支援・ 要介護者認定数	463人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	155人
世帯数	3,836世帯	独居高齢者 登録者数	175人	要支援・ 要介護率	20.4%	小学校児童数	505人
高齢者人口	2,266人	独居登録率	23.8%	在留外国人人口	240人	登録自治会数	11会
高齢化率	27.9%	ひとり暮らし 老人の会	きさらぎ会	※東豊台校区と按分エリアあり		加入世帯数	1,004世帯 (26.2%)

11 東豊台

6年後の重点目標

男性を含めた校区活動の担い手をふやすとともに今よりさらに結びつきの強い地域づくり

目標のための主な取り組み

- ・校区あぐり活動をさらに推進定着させ、定年後の男性を中心に校区福祉活動に参加してもらうきっかけとする。
- ・ローラー訪問作戦を継続し、困りごとの早期発見のみならず、新しいボランティア人材の発掘を図る。

現状と課題

東豊台校区は北から南に縦に細長い形をしている。北側は戸建て中心のエリアで南側はUR シャレール東豊中団地群の占める割合が高い。シャレール団地はエレベーター設置あり、買い物至便な立地もあり、高齢になってからの入居が多い。同じエリアで親子が近距離別居している世帯が多い印象がある。高齢者も多いが、一定期間子育て世代も多く住み、高齢化率はごく平均的な数値にとどまっている。

高齢になってから集合住宅に入居するので、隣人の顔が見えず、つながりのないまま過ごしている人が多い。それでも、ボランティアをしたいと入ってきてくれる人もいる。

小学校を中心に校区内の各団体のつながりは良好で地域行事も活発だが、核となる人材は不足している。そこで、校区あぐり活動を通じて新たな人材募集をはかっており、実際に餅つきなどの地域イベントでの活動につながり、活躍してもらえた。コロナ禍で中断していたローラー訪問活動を再開しており、困りごとの早期発見のみならず、ボランティアの新規人材の発掘効果も期待されている。

恵まれた会場環境を活かし、コロナ禍のあいだも工夫をしながら活発に活動を展開しているが、活動拠点が校区南部にあるので、北部の戸建てエリアの住民には参加しづらいという弱点はある。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（おしゃべりサロン） 子育てサロン（どんぐりやま）

給食サービス（会食会・配食活動（70才以上の独居および虚弱夫婦世帯対象））

世代間交流（小3年生とサロンで交流・小1年生と昔あそび）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）

・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾

○校区あぐり活動



東豊台小学校区 概要

人口	8,896人	65歳以上 単独世帯数	732世帯	要支援・ 要介護者認定数	484人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	169人
世帯数	3,848世帯	独居高齢者 登録者数	147人	要支援・ 要介護率	21.1%	小学校児童数	534人
高齢者人口	2,289人	独居登録率	20.1%	在留外国人人口	124人	登録自治会数	7会
高齢化率	25.7%	ひとり暮らし 老人の会	きんもくせい	※東豊中校区と按分エリアあり		加入世帯数	1,163世帯 (30.2%)

12 上新田

6年後の重点目標

上新田校区の福祉事業に関心をもってもらい、次世代に引き継いでいく

目標のための主な取り組み

- ・マンションサミットなどを通じて集合住宅に住んでいる住民に校区福祉委員会事業の周知を行う

現状と課題

上新田校区は北東部圏域の東部に位置し、吹田箕面線を境に吹田市と隣接してエリアである。校区割りは上新田1丁目・2丁目が新田小学校、3丁目・4丁目が新田南小学校となっており、2つの小学校区をまとめて「上新田校区」として活動していることが特徴。

自治会加入率は新田小学校区が67.7%に対して新田南小学校区が40.0%と差がある。子育て世代が多く子育てサロンを実施すれば多くの親子が参加する。住民が集まる拠点が新田小学校区に2カ所あるが、新田南小学校区は各マンションの集会所以外に集う場所がないのが課題である。

マンション群が建ち並ぶなか、建物の老朽化と共に住民の高齢化も目立ち始め、マンション単位でのサロンや自主防災組織などの立ち上げをしている管理組合・自治会があることも特徴である。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン 子育てサロン（竹の子ちゃん・チアフル） 給食（テイクアウト方式）

見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐん元気塾



上新田小学校区 概要

人口	20,781人	65歳以上 単独世帯数	1,267世帯	要支援・ 要介護者認定数	732人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	222人
世帯数	9,051世帯	独居高齢者 登録者数	141人	要支援・ 要介護率	17.5%	小学校児童数	1,399人
高齢者人口	4,183人	独居登録率	11.1%	在留外国人人口	227人	登録自治会数	17会
高齢化率	20.1%	ひとり暮らし 老人の会	千里若竹会			加入世帯数	4,967世帯 (54.9%)

13 東 丘

6年後の重点目標

新たな人材を発掘して、福祉のまち「東丘」を持続可能なものとする

目標のための主な取り組み

- ・住民アンケート調査（シース調査）の実施
- ・新たな活動場所として、URの空き家などを活用する

現状と課題

東丘校区は北東部圏域の北東に位置し、東側は吹田市と隣接しており北大阪急行「千里中央駅」が地域内にある。1960年代に始まった千里ニュータウン開発の後半に整備され、戸建ての住宅がなく集合住宅のみの地域であることが特徴である。

シニアクラブが会員同士の助け合いでゴミ出しを実施しているマンションや災害時に住民同士で安否確認を実施しているマンションもあり、マンション単位の活動も活発である。

地域自治協議会が組織されており、広報紙などでさまざまな情報を地域住民に伝えている。地域では「ふれあいサロン」や「子育てサロン」などの交流が盛んに行われているが、セキュリティの高い新しいマンションや高層タワーマンションの住民に地域活動を周知できるかが課題である。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（おしゃべりサロン） 子育てサロン（つくしんぼ）
配食（ひとり暮らし老人の会対象）
世代間交流 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）



東丘小学校区 概要

人口	9,865 人	65 歳以上 単独世帯数	1,130 世帯	要支援・ 要介護者認定数	636 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	224 人
世帯数	4,757 世帯	独居高齢者 登録者数	226 人	要支援・ 要介護率	22.3%	小学校児童数	624 人
高齢者人口	2,854 人	独居登録率	20.0%	在留外国人人口	159 人	登録自治会数	15 会
高齢化率	28.9%	ひとり暮らし 老人の会	八千代クラブ			加入世帯数	2,513 世帯 (52.8%)

● 6年後の重点目標

こどもたちの心がやすらげる居場所づくり

目標のための主な取り組み

- ・ボランティアの特性を活かしながら、こどもたちの居場所づくりを支援
- ・安全・安心なまちづくりを一層進めていく

現状と課題

西丘校区は北大阪急行「千里中央駅」の西部に位置し、1960年代千里ニュータウン開発によりまちづくりされたエリアである。東側にあたる「千里中央駅」付近には企業ビル、北側・東側に向けて公団住宅および集合住宅、戸建てが建ち並んでいる。

校区福祉委員会の拠点が平成28年度の小学校建て替え工事で新たに建設された地域連携棟にあり、西丘小学校と連携した住民活動の場として、ふれあいサロン・子育てサロン・ぐんぐん元気塾など様々な活動が一拠点で展開されていることが特徴である。

男ボウが20年来取り組んできた子どもの見守りを維持しながら、こどもたちの居場所づくりを進めていくことが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（おしゃべりサロン） 子育てサロン（キューピーちゃん）

給食（ひとり暮らし老人の会対象） 世代間交流 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐん元気塾
- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）

○男ボウによる子どもの見守り、公園清掃



西丘小学校区 概要

人口	8,376 人	65 歳以上 単独世帯数	736 世帯	要支援・ 要介護者認定数	476 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	131 人
世帯数	3,625 世帯	独居高齢者 登録者数	97 人	要支援・ 要介護率	22.3%	小学校児童数	662 人
高齢者人口	2,134 人	独居登録率	13.2%	在留外国人人口	81 人	登録自治会数	10 会
高齢化率	25.5%	ひとり暮らし 老人の会	むつみ会			加入世帯数	1,850 世帯 (51.0%)

15 南 丘

6年後の重点目標

高齢者がいきいきと活動できる魅力的なまちづくりを目指す

目標のための主な取り組み

- ・ 社会福祉施設と連携して地域内での送迎事業を実施する

現状と課題

南丘校区は北東部圏域の南西部に位置し、南北に長く延びる校区である。南北に延びる道路を境に東側に公団住宅などの集合住宅、西側に千里緑地と戸建て住宅が並ぶ地域と分かれている。また、「幼保連携型認定こども園」「南丘小学校」「豊中市立第九中学校」「大阪府立千里青雲高校」と各年代の施設があるのが特徴である。

老朽化した集合住宅の建て替えが進んでいるが高齢化・孤立化が課題となっている。また、平成29年度から新千里南町3丁目が東泉丘校区から南丘校区に編成され、新千里南町3丁目の住民が地域拠点まで距離が遠く、参加しにくいという課題を抱えている。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（おしゃべりサロン） 子育てサロン（みなみちゃん）

見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○災害時帰宅困難者体験訓練

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐん元気塾



南丘小学校区 概要

人口	10,551 人	65 歳以上 単独世帯数	1,091 世帯	要支援・ 要介護者認定数	777 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	254 人
世帯数	4,825 世帯	独居高齢者 登録者数	192 人	要支援・ 要介護率	25.9%	小学校児童数	685 人
高齢者人口	3,004 人	独居登録率	17.6%	在留外国人人口	90 人	登録自治会数	17 会
高齢化率	28.5%	ひとり暮らし 老人の会	南町いちの会			加入世帯数	2,936 世帯 (60.8%)

16 北 丘

6年後の重点目標

北丘校区の事業を持続可能に引き継げる若い人材を発掘する

目標のための主な取り組み

- ・ こどもの居場所づくり事業を再開する
- ・ LINEを活用したボランティア募集

現状と課題

北丘校区は北東部圏域の北部に位置し、1962年に千里ニュータウンがまちびらきされ60年以上経っている地域で集合住宅と戸建てのエリアがはっきりと分かれており、緑が多い閑静な住宅街である。

高齢化率が高く、南側から北側にかけて長い坂道があるため移動とスーパー・コンビニが相次いで閉店しており買物支援が大きな課題である。

地域自治組織があり、11の各種団体が広報や行事など一体化して行っていることが北丘校区の大きな特徴である。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（おしゃべりサロン） 子育てサロン（ポップ） 給食（テイクアウト方式）
世代間交流（クリスマス会） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐん元気塾
- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）



北丘小学校区 概要

人口	7,292 人	65 歳以上 単独世帯数	924 世帯	要支援・ 要介護者認定数	690 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	239 人
世帯数	4,825 世帯	独居高齢者 登録者数	182 人	要支援・ 要介護率	27.9%	小学校児童数	443 人
高齢者人口	3,514 人	独居登録率	19.7%	在留外国人人口	94 人	登録自治会数	9 会
高齢化率	34.0%	ひとり暮らし 老人の会	ちさと会			加入世帯数	1,689 世帯 (48.1%)

17 東泉丘

6年後の重点目標

若い世代や集合住宅の住民に東泉丘校区福祉委員会に関心をもってもらう

目標のための主な取り組み

- ・マンション防災協力員として協力の呼びかけをおこなう

現状と課題

東泉丘校区は北東部圏域の南端に位置し、緑地公園にもほど近く他市（吹田市）にも隣接しており新しい集合住宅が多く建設されているエリアである。北大阪急行線にも隣接しており交通の便が良く通勤族の多いエリアである。しかし、急な坂道が多く移動の交通手段としてバスを利用している人も多い。坂道が多いことから歩行困難者や高齢者に対してサロンなどの校区福祉事業に参加してもらうかが課題である。

高齢化率が18.4%で若い世代の住民が多く、今後なるべく多くの住民に東泉丘校区の事業に関心をもってもらいたいと役員一同考えている。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン 子育てサロン（ももちゃん） 給食（テイクアウト方式）
世代間交流（昔あそび） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐん元気塾
- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）



東泉丘小学校区 概要

人口	8,568 人	65 歳以上 単独世帯数	439 世帯	要支援・ 要介護者認定数	273 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	69 人
世帯数	3,429 世帯	独居高齢者 登録者数	55 人	要支援・ 要介護率	17.3%	小学校児童数	620 人
高齢者人口	1,578 人	独居登録率	12.5%	在留外国人人口	100 人	登録自治会数	10 会
高齢化率	18.4%	ひとり暮らし 老人の会	桃の会	※泉丘校区と按分エリアあり		加入世帯数	1,135 世帯 (33.1%)

18 桜 塚

6年後の重点目標

こどもから高齢者まで地域で助け合える仕組みづくりと新しい人材育成を目指そう

目標のための主な取り組み

- ・放課後こどもクラブの時間を延長しているこども達に向けての子ども食堂を再開。（小学校の家庭科室を利用し、若いお母さん方へもお手伝いの呼びかけを行う。）
- ・住民アンケートを実施し、地域のお困りごとの把握と新たな人材を発掘する。
- ・なんでも相談でボランティアの受付をする。

現状と課題

桜塚校区は校区福祉委員会・民生児童委員会を中心に、自治会や公民分館など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。しかし、コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間できなかったため、学校やPTAと各種団体との連携を再構築する必要がある。

校区内には昔からの戸建て住宅も多いが、新しいマンションもあり若い子育て世代が転入してきている。次世代の人材確保と育成のためにも住民に福祉委員会を知ってもらい次の世代へどのようにつなげるかが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（おしゃべりサロン） 子育てサロン（さくらぐみ）
 食事会（ひとり暮らし老人の会対象）
 世代間交流（クリスマス会） 見守り声かけ活動・配食（ひとり暮らし高齢者への訪問）
 弁当作り（配食）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾

○こどもの居場所づくり 子ども食堂



桜塚小学校区 概要

人口	10,054 人	65 歳以上 単独世帯数	888 世帯	要支援・ 要介護者認定数	529 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	191 人
世帯数	4,797 世帯	独居高齢者 登録者数	141 人	要支援・ 要介護率	21.9%	小学校児童数	556 人
高齢者人口	2,415 人	独居登録率	15.9%	在留外国人人口	114 人	登録自治会数	3 会
高齢化率	24%	ひとり暮らし 老人の会	まほろば会	※南桜塚・熊野田校区と按分 エリアあり		加入世帯数	2,890 世帯 (60.2%)

19 南桜塚

6年後の重点目標

こどもから高齢者まで地域で助け合える仕組みづくりと、新たな人材の発掘

目標のための主な取り組み

- ・なんでも相談でボランティアの受付を行う。
- ・こども広報委員に広報紙の作成を手伝ってもらう。（校区の活動をインタビュー、記事の作成など）
- ・見守りローラー作戦を実施し地域の実情を把握。

現状と課題

南桜塚校区は校区福祉委員会・民生児童委員会を中心に、自治会や公民分館など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。しかし、コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間できなかったため、学校やPTAと各種団体との連携を再構築する必要がある。

南桜塚会館を活動拠点とし、給食サービスや子育てサロン等を実施。なんでも相談の窓口もいっている。大きなマンションへは子育て世帯が転入してきているため、若い子育て世代に福祉委員会を知ってもらい次の世代へどのようにつなげていくかが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（おしゃべりサロン） 子育てサロン（すくすく）
給食会（ひとり暮らし老人の会対象）
世代間交流（クリスマス会） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）
- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾

○こどもの居場所づくり 子ども食堂（朝食）



南桜塚小学校区 概要

人口	12,518人	65歳以上 単独世帯数	1,017世帯	要支援・ 要介護者認定数	658人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	219人
世帯数	5,730世帯	独居高齢者 登録者数	161人	要支援・ 要介護率	22.7%	小学校児童数	819人
高齢者人口	2,904人	独居登録率	15.8%	在留外国人人口	149人	登録自治会数	5会
高齢化率	23.2%	ひとり暮らし 老人の会	南桜塚 ときわ会	※桜塚・熊野田と按分エリアあり		加入世帯数	2,312世帯 (40.3%)

20 克 明

6年後の重点目標

新しい人材の育成に取り組み、住民同士で協力し合える体制づくりをすすめよう

目標のための主な取り組み

- ・男性ボランティアに対する福祉への参加促進

現状と課題

克明地区は校区福祉委員会・民生児童委員会を中心に自治会や公民分館など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。しかし、コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間できなかったため、学校やPTAと各種団体との連携を再構築する必要がある。

駅が近いエリアではあるが、なかなか若い世代の転入がなく高齢化が進んでいる。若い世代は共働きがほとんどであるため、福祉の担い手にはなりづらい。定年後の男性や若い子育て世代に福祉委員会を知ってもらい新しい人材の育成や、次の世代へどのようにつなげるかが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン 子育てサロン（さくらんぼ） 給食会（ひとり暮らし老人の会対象）
世代間交流（交流会、昔の遊びなど） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（啓発・受付）
- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾



克明小学校区 概要

人口	10,933 人	65 歳以上 単独世帯数	1,133 世帯	要支援・ 要介護者認定数	722 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	234 人
世帯数	5,926 世帯	独居高齢者 登録者数	157 人	要支援・ 要介護率	24.0%	小学校児童数	414 人
高齢者人口	3,014 人	独居登録率	13.9%	在留外国人人口	227 人	登録自治会数	15 会
高齢化率	27.6%	ひとり暮らし 老人の会	克明桜の会	※原田校区と按分エリアあり		加入世帯数	1,884 世帯 (31.8%)

21 熊野田

6年後の重点目標

こどもたちの居場所づくりに取り組み、こどもからお年寄りまで
安心できる地域づくりを目指そう

目標のための主な取り組み

- ・校区福祉委員会の拠点を使ったこどもの居場所づくり、学習支援など
- ・子ども広報委員
- ・なんでも相談の有効活用

現状と課題

熊野田校区は自治会を中心に校区福祉委員会・民生児童委員会・公民分館など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。しかし、コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間できなかったため、学校やPTAと各種団体との連携を再構築する必要がある。

校区の中でも、旧村の地域と新興住宅地、新築マンションが混在しており、新しい子育て世帯も転入してきている。しかし、新築マンションだけではなく、築40年～50年の古いマンションもあり、高齢化が進行している。若い子育て世代に福祉委員会を知ってもらい次の世代へどのようにしてつなげるかが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン 子育てサロン（くまっ子ちゃん） 給食会（ひとり暮らし老人の会対象）
世代間交流（グランドゴルフ、昔の遊びなど） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾

○こどもの居場所づくり 学習支援・遊びの場の提供



熊野田小学校区 概要

人口	11,261人	65歳以上 単独世帯数	829世帯	要支援・ 要介護者認定数	556人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	191人
世帯数	4,962世帯	独居高齢者 登録者数	138人	要支援・ 要介護率	20.9%	小学校児童数	678人
高齢者人口	2,665人	独居登録率	16.6%	在留外国人人口	128人	登録自治会数	16会
高齢化率	23.7%	ひとり暮らし 老人の会	花みずき会	※桜塚・南桜塚と按分エリアあり		加入世帯数	1,356世帯 (27.3%)

22 泉 丘

6年後の重点目標

高齢者も子どもも地域で安心できる居場所づくりと住民ボランティアの育成を目指そう

目標のための主な取り組み

- ・校区福祉委員会の拠点（小学校の敷地内）を使ったこどもの居場所づくり、学習支援
- ・社会福祉施設の空き土地を使用した校区あぐりを立ち上げ、男性に対する福祉への参加促進
- ・手作り弁当の食事会を再開する

現状と課題

泉丘校区は校区福祉委員会・民生児童委員会を中心に自治会や公民分館など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。しかし、コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間できなかったため、学校やPTAと各種団体との連携を再構築する必要がある。

集合住宅が立ち並ぶエリアで従来からマンションの集会室を利用してふれあいサロンなどを実施している。転勤等での入れ替わりもあり、子育て世帯が転入してきても地域への関心が薄く、関係性が希薄になっている。福祉の担い手発掘と人材育成のためにも、若い子育て世代や定年後の男性などに福祉委員会を知ってもらい、次の世代へどのようにつなげるかが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（おしゃべりサロン） 子育てサロン（ぴよぴよ）

給食会（ひとり暮らし老人の会対象）

世代間交流（昔の遊び、戦争の話など） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）
- ・（通所型）ぐんぐん元気塾



泉丘小学校区 概要

人口	11,861 人	65 歳以上 単独世帯数	822 世帯	要支援・ 要介護者認定数	722 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	157 人
世帯数	5,043 世帯	独居高齢者 登録者数	157 人	要支援・ 要介護率	24%	小学校児童数	706 人
高齢者人口	2,782 人	独居登録率	13.9%	在留外国人人口	119 人	登録自治会数	16 会
高齢化率	23.5%	ひとり暮らし 老人の会	いずみ会	※東泉丘と按分エリアあり		加入世帯数	1,549 世帯 (30.7%)

23 緑 地

6年後の重点目標

住民同士がつながりあう防災に強い街づくりを目指そう

目標のための主な取り組み

- ・マンション管理組合・自治会にアプローチして防災協力員を選出
(地域内の災害時の安否確認協力を推進する)

現状と課題

西側に大阪府立服部緑地公園、南側にさわ病院が隣接し、中心に曽根駅から服部緑地公園に向かう通りにスーパーなどの商業店舗や履正社高校があり、その通りの南北に戸建て住宅やマンションがある。

校区福祉委員会は自治会連合会や地区民生・児童委員会、防犯協議会など他団体と連携し、こどもの見守り活動やお楽しみサロン、餅つき、献血など活発的に地域活動を実施してきたが、コロナ禍で集まる行事を止めざるを得なかった。しかし、ひとり暮らし高齢者への見守り活動や、フレイル予防のためにぐんぐん元気塾は継続して行ってきた。令和 5 年度は徐々に活動を精査しながら増やしていっている。

地域全体に自治会はあるが、加入世帯が減少している。新たな福祉委員の担い手を広げるためにマンションなどの集合住宅の住民に関心をいかに持ってもらうかが課題である。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（ふれあいサロン（毎月 20 日）・OPH カフェサロン）

子育てサロン（まつぼっくり）

会食会（ひとり暮らし老人の会対象） 世代間交流（地域美化運動・昔遊び）

見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（啓発・受付）

- ・（通所型）ぐんぐん元気塾

○その他

- ・こどもの通学見守り活動（小学校 1 年生）



緑地小学校区 概要

人口	11,925 人	65 歳以上 単独世帯数	855 世帯	要支援・ 要介護者認定数	543 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	185 人
世帯数	5,277 世帯	独居高齢者 登録者数	120 人	要支援・ 要介護率	20.6%	小学校児童数	704 人
高齢者人口	2,630 人	独居登録率	14.0%	在留外国人人口	135 人	登録自治会数	13 会
高齢化率	23.3%	ひとり暮らし 老人の会	緑地会	※南桜塚校区と按分エリアあり		加入世帯数	1,423 世帯 (27.2%)

24 北 条

6年後の重点目標

手作り弁当でボランティア活動を活発にそして地域のつながり、絆を深めよう

目標のための主な取り組み

- ・給食会の活発化、ボランティアの増加
- ・校区活動拠点（地域資源）の再調査

現状と課題

北条校区は市の中東部に位置し、北は服部緑地、東西を天竺川と高川に挟まれたエリアである。神崎刀根山線は南北に抜ける車の交通量が多い道である。鉄道沿線から離れていることから大規模な開発事業が行われず昔ながらの住宅地となっている。特に北条地区北部の若竹町は昔からの集落で、神社を中心とした昔ながらのつながりが残っている。高齢化率は市平均とほぼ同じ25.9%である。

校区の活動は、地区会館、住宅集会所と地理的にもわかれた拠点を活用して実施している。北条デイサービスセンター2階（淳風きたじょう）で給食会を実施していたが、法人が撤退した後、盛んに行っていた給食会ができなくなった。また、その後すぐにコロナ禍となり、学校でする行事が減り、ボランティアの人数が減少していることが課題である。自治会の加入者も減少していき、地域でつながりあえる機会が減ってきている。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン・子育てサロンひまわり ふれあい給食会（ひとり暮らし老人の会対象）
世代間交流（もちつき大会） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（啓発・受付）
- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾

○見守りローラー作戦



北条小学校区 概要（令和5年4月1日）

人口	9,061人	65歳以上 単独世帯数	769世帯	要支援・ 要介護者認定数	537人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	160人
世帯数	4,088世帯	独居高齢者 登録者数	94人	要支援・ 要介護率	22.9%	小学校児童数	559人
高齢者人口	2,344人	独居登録率	12.2%	在留外国人人口	92人	登録自治会数	9会
高齢化率	25.9%	ひとり暮らし 老人の会	コスモス会			加入世帯数	1,018世帯 (24.9%)

25 小曽根

6年後の重点目標

住民同士の絆をつくるため諸団体と連携して行事をすすめていこう

目標のための主な取り組み

- ・手の届く範囲で楽しくできるボランティア活動の推進
- ・畑や田んぼを活用した世代間交流

現状と課題

東西は天竺川と高川、南北は内環状線と府道豊中吹田線に挟まれ、神崎刀根山線が中央部を縦断する形で位置する小曽根校区はかつて南郷目代としてこの地を支配していた今西家屋敷をはじめ古刹の寺社が現存し、周囲も区画の整理などの開発の手は入れられていない。神崎刀根山線沿いは中層のマンションが立ち並んでいるが、校区住人は代々住んでいる地の人が多く、自治会の加入率も圏域内でも突出して高い（59.1%）。ただ、自治会員の高齢化が原因で退会される世帯も少なくなく加入率は減少している。

平成 26 年度に校区内の各種団体が参画する地域自治協議会を発足。年 1 回の防災訓練には地域をあげて協力している。校区内には高齢者入所施設がないが、空港対策による共同利用施設が 3 ヶ所、地区会館が 1 ヶ所で、拠点数は多い方である。特に、南郷の家が地域活動の拠点である。

コロナ禍で集まることが困難な中、ひとり暮らし高齢者の封書で安否確認を行ったり、野外で子育てサロンを実施するなど創意工夫しながらつながりを保ち続けたが、現在は通常通り、室内での活動をすすめている。

また、安否確認として年 1 回、民生委員を中心に 108 名の避難行動要支援者に個別訪問をおこなっている。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン・子育てサロン ふれあい給食会（ひとり暮らし老人の会対象）
世代間交流（れんげ摘み） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾



小曽根小学校区 概要（令和 5 年 4 月 1 日）

人口	6,803 人	65 歳以上 単独世帯数	429 世帯	要支援・ 要介護者認定数	429 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	108 人
世帯数	3,434 世帯	独居高齢者 登録者数	47 人	要支援・ 要介護率	22.9%	小学校児童数	291 人
高齢者人口	1,739 人	独居登録率	7.8%	在留外国人人口	134 人	登録自治会数	9 会
高齢化率	25.6%	ひとり暮らし 老人の会	はつね会			加入世帯数	2,018 世帯 (24.9%)

26 寺 内

6年後の重点目標

つながりあえる、防災につよい安心安全なまちづくりを目指そう

目標のための主な取り組み

- ・マンション防災協力員やマンション交流会
- ・校区あぐりを通じた世代間交流

現状と課題

寺内校区は、服部緑地公園の東側、北大阪急行緑地公園駅の両側に広がる。はじめに東寺内地区の戸建て住宅が形成され、その後大阪万博を契機とした緑地公園駅の設置以後開発が進んだマンションが多く立ち並び寺内地区が形成されたまちである。服部緑地公園に近く、大阪市街へのアクセスが便利な駅周辺であることからファミリー層が多く通勤族が多い。自治会は2会あり自治会加入は世帯ごとに加入しており、地域全体では市内で一番加入率低い。校区福祉委員会は集合住宅の課題やコミュニティづくりにも着目しており、平成26年からマンション管理組合向けのアンケート調査やサミットの取り組みを進めたり、大阪北部地震以降、無事ですシートを配布したりしていたが、コロナ禍で取り組みが一旦止まっていた。

高齢化率は市内でも4番目に低い19.1%であるが、見守りローラー作戦訪問をしていると、単身の高齢者が増えているのを実感する。住宅の形状から互いに近隣住民の動向が把握しづらい中で不意の訪問者に対しては居留守や玄関先に出てこないという人も多く、平時からの要援護者の安否確認やコミュニティ活動の活性化が必要である

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（水曜クラブ・麻雀クラブ・囲碁会） 子育てサロン（ほっとるーむひよこちゃん寺内）
給食会（ひとり暮らし老人の会を対象） 世代間交流（昔遊び・昔の暮らし・さつまいも堀り）
見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（啓発・受付）
- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾

○見守りローラー作戦

○校区あぐり（寺内あぐり）



寺内小学校区 概要（令和5年4月1日）

人口	9,814人	65歳以上 単独世帯数	674世帯	要支援・ 要介護者認定数	309人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	108人
世帯数	3,366世帯	独居高齢者 登録者数	82人	要支援・ 要介護率	16.5%	小学校児童数	524人
高齢者人口	1,870人	独居登録率	12.2%	在留外国人人口	141人	登録自治会数	2会
高齢化率	19.1%	ひとり暮らし 老人の会				加入世帯数	800世帯 (16.2%)

● 6年後の重点目標

こどもたちの居場所づくりに取り組み、若い人に魅力ある街づくりを目指そう

目標のための主な取り組み

- ・ 校区福祉委員会の拠点を使ったこどもの居場所づくり・学習支援

現状と課題

豊南小学校区は自治会を中心に校区福祉委員会・民生児童委員会・公民分館など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。しかし、コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間できなかったため、学校やPTAと各種団体との連携を再構築する必要がある。

大きなマンションは比較的少なく、古い戸建てや文化住宅が立ち並んでいたが、建て替えが進み新しい子育て世帯が転入してきている。若い子育て世代に福祉委員会を知ってもらい次の世代へつなげるかが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（おしゃべりサロン）子育てサロン（赤ちゃん会「おひさま」）

給食会（ひとり暮らし高齢者を対象）世代間交流（クリスマス会）

見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）

- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾

○こどもの居場所づくり 学習・遊びの場の提供



豊南小学校区 概要（令和5年4月1日）

人口	6,335 人	65 歳以上 単独世帯数	850 世帯	要支援・ 要介護者認定数	549 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	194 人
世帯数	3,366 世帯	独居高齢者 登録者数	130 人	要支援・ 要介護率	29.1%	小学校児童数	292 人
高齢者人口	1,889 人	独居登録率	15.3%	在留外国人人口	127 人	登録自治会数	14 会
高齢化率	29.8%	ひとり暮らし 老人の会		※高川校区と按分エリアあり		加入世帯数	1,355 世帯 (40.3%)

6年後の重点目標

手作り給食でぬくもりのあるつながりづくりを新たにつくろう

目標のための主な取り組み

- ・手作り給食によるボランティアの再結成
- ・子ども食堂の再開

現状と課題

市域の南東部に位置する高川校区は人口増加に伴い昭和43年に高川小学校が新設され、豊南小学校区の北部分を分割する形で設定された。小規模の文化住宅、アパート、企業の社宅が多く、その中で病院や中小工場も共存している。現在はその他南部地域と同様少子高齢化が進行しており、小学校は各学年1～2クラスしかない。

校区内での事件をきっかけに見守りローラー作戦と称してCSW、地域包括支援センター職員が同行してエリアごとの全戸訪問を実施し、校区内を一巡した。見守りローラー作戦の先駆けとなった。

校区内には高齢者施設・事業所が多く、行事で連携を図っている。地域包括支援センター分室や介護予防センターや老人憩の家、スポーツルーム、図書館など市立複合施設に高齢者の居場所づくりの施設・機関が集まっていることも特徴的である。

自治会・公民分館・民生児童委員会と地域団体の連携が強く、広報紙は「ゆめあるまち高川」を協働で発行している。ただ、各団体の役を兼ねている方が多く、新たな福祉委員の担い手づくりは大きな課題となっている。

ひとり暮らし老人の会たかがわ会給食会をコロナ禍前は手作りで食事づくりをしていたが、現在は業者弁当を提供している。もう一度食事作りをするボランティアを増やしていき、手作り給食の再開、また、先駆的に実施していたこども食堂も併せて再開で地域を活性化したい。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン・子育てサロン（子育てサロンなかよし（休止中）） 給食会（たかがわ会食事会）
世代間交流（焼きいも大会・もちつき大会） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（啓発・受付）
- ・（通所型）ぐんぐん元気塾（2か所）

○見守りローラー作戦

○子ども食堂（休止中）



高川小学校区 概要（令和5年4月1日）

人口	6,199人	65歳以上 単独世帯数	664世帯	要支援・ 要介護者認定数	468人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	154人
世帯数	3,299世帯	独居高齢者 登録者数	126人	要支援・ 要介護率	28.4%	小学校児童数	263人
高齢者人口	1,645人	独居登録率	19.0%	在留外国人人口	163人	登録自治会数	7会
高齢化率	26.5%	ひとり暮らし 老人の会	たかがわ会	※豊南校区と按分工リアあり		加入世帯数	865世帯 (26.2%)

● 6年後の重点目標

こどもたちの居場所づくりに取り組み、若い人にとって魅力ある街づくりを目指そう

目標のための主な取り組み

- ・ 校区福祉委員会の拠点を使ったこどもの居場所づくり・学習支援

現状と課題

原田地区は地の人が多いからか高齢化率も高く、自治会加入率は低く、自治会活動ではなく、校区福祉委員会・民生児童委員会が地域の高齢者の見守り活動などを行っている。地域の行事は各種団体が協力して行っており、特に小学校とは関係がよく、地域行事への教職員の参加は代々引き継がれている。

しかし小学生の関わりはあるものの親との接点が少なく、若い方々への地域福祉活動の周知が弱いのか担い手の高齢化は課題である。子どもの居場所から若い世代に福祉委員会を知ってもらい次の世代へつなげるかが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（サロン遊友）麻雀教室・福祉コーラス 子育てサロン（よちよち遊友）
会食会（ひとり暮らし老人の会対象）
世代間交流（ふれ愛ひろば・ふれ愛クリスマス会）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）
- ・（通所型）ぐんぐん元気塾



原田小学校区 概要

人口	6,092 人	65 歳以上 単独世帯数	1,154 世帯	要支援・ 要介護者認定数	724 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	218 人
世帯数	3,206 世帯	独居高齢者 登録者数	153 人	要支援・ 要介護率	22.6%	小学校児童数	608 人
高齢者人口	1,154 人	独居登録率	13.3%	在留外国人人口	261 人	登録自治会数	8 会
高齢化率	27.3%	ひとり暮らし 老人の会		※克明校区と按分エリアあり		加入世帯数	778 世帯 (12.8%)

6年後の重点目標

こどもの居場所づくりに取り組み、子育て世帯と繋がり、
若い世帯が参加できる地域福祉を目指そう

目標のための主な取り組み

- こどもの居場所づくりの継続実施から若い世帯との交流会を通じて地域福祉への参加を促す。

現状と課題

中豊島地区は服部天神駅、曾根駅の東に広がるエリアで商業施設が多く生活至便はよく、公的施設も多く、文化的には恵まれている地域であり、自治会・民生・福祉委員・公民分館など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。若い方は自治会未加入の人が多く、またコロナ以降自治会機能が低下し、地域のつながりが希薄になっている事が課題である。しかし、高齢者はサロン等で繋がりを大切にし、さわ病院看護学生の協力も得て、敬老の集いを実施できた。服部介護予防センターや服部地域包括支援センターがあり、高齢者への情報提供の場は多くあり、地域福祉の意識は高いと思われる。一方、若い世帯と繋がる事業が少ないため今年度から子どもの居場所をスタートしている。今後、若い世帯の興味を引くような地域福祉事業を増やしていきたいと考えている。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（いきいきサロン・よりみちサロン）子育てサロン（ぴかぴかママ・きらきらママ）給食会（ひとり暮らし老人の会・ひとり暮らし高齢者対象）

世代間交流（もちつき大会）見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐん元気塾

○こどもの居場所づくり



中豊島小学校区 概要

人口	12,362 人	65 歳以上 単独世帯数	1,195 世帯	要支援・ 要介護者認定数	679 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	219 人
世帯数	6,364 世帯	独居高齢者 登録者数	104 人	要支援・ 要介護率	21.8%	小学校児童数	629 人
高齢者人口	3,108 人	独居登録率	8.7%	在留外国人人口	163 人	登録自治会数	15 会
高齢化率	25.1%	ひとり暮らし 老人の会	七宝会			加入世帯数	1,585 世帯 (24.9%)

31 豊島北

6年後の重点目標

幼児から高齢者までみんなでつながり、必要な人に必要な支援を届けあう、
温もりのある地域福祉を目指そう

目標のための主な取り組み

- ・地域福祉の推進を多世代が担う〈まち〉づくり。
- ・広報の作成、世代間交流の企画等、こども達とともに福祉の輪を広げる〈まち〉づくり。
- ・困っている人が相談しやすい〈まち〉づくり。
- ・福祉施設との連携及び地域防災支援者の増員等、災害に強い〈まち〉づくり。

現状と課題

豊島北地区は曽根駅から服部天神駅までの西側で平坦の地形であり、公園・商業施設がそろっており生活に便利な地域であるが活動拠点が西側に偏っているので活動拠点を増やすことも課題である。校区福祉委員会・民生児童委員会・自治会・公民分館・自主防災会など関係団体が協力して行事を行っているが、コロナ禍は行事が中止になりPTA世代との関わりが薄くなり、新たな担い手の発掘が滞っている事が課題である。今後は防災訓練の再開を行い、防災意識の高い方々を巻き込んで支援者の増員を考えている。また、高齢者は参加するだけではなく、スタッフとして活躍できる仕組み作りが課題である。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（お誕生会・おしゃべり・手芸など） 子育てサロン（ぷよぷよクラブ）
給食会（ひとり暮らし老人の会・ひとり暮らし高齢者対象） 世代間交流（おいもんち・グラ
ンドゴルフ）
見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐん元気塾



豊島北小学校区 概要

人口	10,574 人	65 歳以上 単独世帯数	1,143 世帯	要支援・ 要介護者認定数	637 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	236 人
世帯数	5,360 世帯	独居高齢者 登録者数	168 人	要支援・ 要介護率	23.1%	小学校児童数	462 人
高齢者人口	2,757 人	独居登録率	14.7%	在留外国人人口	166 人	登録自治会数	11 会
高齢化率	26.1%	ひとり暮らし 老人の会	長月会			加入世帯数	1,165 世帯 (21.7%)

32 豊島西

6年後の重点目標

こどもの居場所の支援に取り組み、子育て世帯と繋がり、若い世帯が参加できる地域福祉を目指す

目標のための主な取り組み

- こどもの居場所と学習支援から若い世帯との接点を大切にし、こども福祉委員の協力を得て行事や広報紙の作成を行う。

現状と課題

豊島西地区は校区福祉委員会・民生児童委員会・公民分館・自治会など関係団体が協力して行事を行ってきた。3年間コロナ禍で中止していた行事も令和5年度からは再開している。子どもが少なく高齢者が多いため、世代間交流は手厚く支援出来ている。高齢者の見守りや福祉便利屋事業の対応は民生委員・福祉委員が行っているが、担い手の発掘は課題である。災害時は、校区が猪名川で分断されているので利倉西の避難場所や高齢者施設等の連携が大切であり、日頃からサロンを施設で実施するなど交流を行っている。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（上津島いきいきサロン・利倉いきいきサロン）子育てサロン（かるがも）
給食会（ひとり暮らし高齢者対象）
世代間交流（折り紙・昔の洗濯や靴洗い体験・団子づくり・昔遊び）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- （訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）
- （通所型）ぐんぐん元気塾

○こどもの居場所づくり

- こどもの居場所&学習支援



豊島西小学校区 概要

人口	7,874 人	65 歳以上 単独世帯数	771 世帯	要支援・ 要介護者認定数	500 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	136 人
世帯数	3,975 世帯	独居高齢者 登録者数	151 人	要支援・ 要介護率	22.9%	小学校児童数	359 人
高齢者人口	2,184 人	独居登録率	19.6%	在留外国人人口	262 人	登録自治会数	15 会
高齢化率	27.7%	ひとり暮らし 老人の会				加入世帯数	1,457 世帯 (36.7%)

6年後の重点目標

こども広報委員に取り組み、子育て世帯と繋がり、
若い世帯が参加できる地域福祉を目指す

目標のための主な取り組み

- ・世代間交流参加者からこども福祉広報委員の協力を得て、広報紙の作成を行う。

現状と課題

豊島地区は面積の広い校区で、駅近くの文化住宅・単身用マンションがあるため世帯数が多く、高齢化率が高く、自治会加入率は低いため、住民同士のつながりが重要と思われる。家から近い場所で参加できるように5か所の公的施設でサロン事業を行い、多くの高齢者の参加がある。

校区福祉委員会・民生児童委員会・自治会などが協力して行事を実施しているが、担い手の高齢化と人材不足が課題である。世代間交流は学校と連携し、芋ほり・手芸の干支作り等多く実施しており、子どもとの交流になっているので、こども福祉広報委員を募り、協力を呼びかけ、地域福祉の活動を知る機会とし、子どもから親へ、親から子へ、地域福祉の担い手につながることを期待する。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（ローズサロン寿・ローズサロン南・おしゃべりサロン）子育てサロン（つくしんぼ）給食会（ひとり暮らし老人の会・ひとり暮らし高齢者対象）

世代間交流（芋ほり・昔遊び・手芸干支作り・グランドゴルフ・バルーンアート）見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（訪問型）福祉便利屋事業（コーディネーター設置）
- ・（通所型）ぐんぐん元気塾



豊島小学校区 概要

人口	13,171 人	65 歳以上 単独世帯数	1,771 世帯	要支援・ 要介護者認定数	931 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	351 人
世帯数	7,626 世帯	独居高齢者 登録者数	187 人	要支援・ 要介護率	25.2%	小学校児童数	540 人
高齢者人口	3,697 人	独居登録率	10.6%	在留外国人人口	311 人	登録自治会数	22 会
高齢化率	28.1%	ひとり暮らし 老人の会	わかい会			加入世帯数	911 世帯 (11.9%)

34 庄 内

6年後の重点目標

変化が激しい地域における、継続的な地域福祉活動の実施

目標のための主な取り組み

- ・安定、継続的な拠点確保
- ・次代の担い手、若い世代の人材確保
→特に男性の福祉委員会参画を促すような企画を改めて実施

現状と課題

庄内地区は自治会や公民分館を中心に校区(地区)福祉委員会を構成し、民生児童委員会とも協働しながら地域福祉活動を実施してきた。しかし、コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間出来ず、また、学校再編に伴い旧校区の廃止、そして活動拠点を失うことになった。従来の活動の再開や安定かつ継続的な活動を実施するためにも拠点の確保は急務である。

大きなマンションは比較的少ないが、小規模のマンションが増え、若い世代や外国籍の人も増えてきている。古い戸建てや文化住宅が立ち並んでいたが、建て替えが進み、それに伴って自治会も減少している。子育て世代に福祉委員会活動に興味関心を持ってもらい次世代へつなげるか、男性の福祉委員会活動参画が課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン 子育てサロン（アイアイ） 給食会（独居高齢者対象）

世代間交流（七夕の集い）

誕生日プレゼントの配布（兼見守り声かけ活動）（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口



庄内地区(小学校区) 概要

人口	7,564 人	65 歳以上 単独世帯数	1,167 世帯	要支援・ 要介護者認定数	758 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	284 人
世帯数	4,456 世帯	独居高齢者 登録者数	230 人	要支援・ 要介護率	29.4%	小学校児童数	245 人
高齢者人口	2,575 人	独居登録率	19.7%	在留外国人人口	159 人	登録自治会数	8 会
高齢化率	34.0%	ひとり暮らし 老人の会				加入世帯数	1,323 世帯 (29.7%)

6年後の重点目標

こどもたちを中心に、多様な世代に魅力ある地域づくり

目標のための主な取り組み

- ・ さくら学園とのつながりを再構築
- ・ こどもたちと協働した校区(地区)福祉委員会活動の周知と発展
- ・ 地域の多様な事業所と連携した地域福祉活動の充実

現状と課題

島田地区は校区福祉委員会・民生児童委員会・公民分館など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。校区(地区)内にある多様な事業所との協力関係も良く、福祉委員会活動(イベント)を積極的に協働して行っていた。ただ、元々校区内はこどもの数は少なく、また、コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間できなかったため、学校や保育園など各種団体との連携が希薄になってしまった。

大きなマンションは比較的少なく、昔ながら地域でくらす住民が多く独居高齢者も多い。一方で、建て替えが進み新しい子育て世帯が転入してきている。また、学校再編に伴い校区が無くなったので、さくら学園との関係再構築や若い子育て世代に福祉委員会を知ってもらい次の世代へつなげるかが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動(グループ援助活動・個別援助活動)

ふれあいサロン(おしゃべりサロン) 子育てサロン(きらきら)

世代間交流(グランドゴルフ・クリスマス会) 見守り声かけ活動(ひとり暮らし高齢者への訪問)

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・ (訪問型) 福祉便利屋事業(コーディネーター設置)
- ・ (通所型) ぐんぐん元気塾



島田小学校区(地区) 概要

人口	6,376 人	65 歳以上 単独世帯数	910 世帯	要支援・ 要介護者認定数	598 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	186 人
世帯数	3,621 世帯	独居高齢者 登録者数	172 人	要支援・ 要介護率	28.2%	小学校児童数	215 人
高齢者人口	2,124 人	独居登録率	18.9%	在留外国人人口	250 人	登録自治会数	18 会
高齢化率	33.3%	ひとり暮らし 老人の会	気楽会	※庄内西校区と按分エリアあり		加入世帯数	964 世帯 (26.6%)

6年後の重点目標

地域のつながりを再構築し、次世代への福祉活動の継承

目標のための主な取り組み

- ・福祉委員会とさくら学園の関係を再構築。
- ・地区内の定年後の男性が参加できる取り組みを通じて、新たな人材を発掘し次世代の福祉の担い手をつくる。
- ・福祉委員会の活動を子ども(広報員等)を通して発信し、その子らの親世代に向けた地域福祉への関心を広げる。

現状と課題

野田地区(校区)は自治会を基に、校区福祉委員会・民生児童委員会・公民分館など関係団体が協力して行事を行ってきた。しかし、コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間できなかったため、学校やPTAと各種団体との連携を再構築する必要がある。独居高齢者が多く、地元(自治会)で信頼関係を築きながら見守りをしてきたが、加入率の低下や個人情報に壁となり行政や病院等と上手く連携が取りづらくなっている。また、学校再編に伴い公民分館も他校区と統一されたことにより、従来の様な地元に根差した活動が難しくなっている。地元のつながりの強化や現在の取組みを次の世代に継承していく事が課題である。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動(グループ援助活動・個別援助活動)

ふれあいサロン 子育てサロン(マンマの会) 給食サービス(配食 独居高齢者対象)
世代間交流(グランドゴルフ大会 セタまつり)
見守り声かけ活動(配食を通じてひとり暮らし高齢者への訪問)

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・(訪問型)福祉便利屋事業(コーディネーター設置)
- ・(通所型)ぐんぐん元気塾



野田小学校区 概要

人口	9,106 人	65 歳以上 単独世帯数	1,445 世帯	要支援・ 要介護者認定数	758 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	335 人
世帯数	5,630 世帯	独居高齢者 登録者数	229 人	要支援・ 要介護率	26.0%	小学校児童数	262 人
高齢者人口	2,914 人	独居登録率	15.8%	在留外国人人口	273 人	登録自治会数	11 会
高齢化率	32.0%	ひとり暮らし 老人の会	休会			加入世帯数	1,053 世帯 (18.7%)

37 庄内西

6年後の重点目標

こどもや多様な主体と協働した、地域福祉活動の継続実施

目標のための主な取り組み

- ・現在行われている福祉委員会以外の主体を巻き込んだ取り組みの拡大
- ・「こども広報員」に校区福祉活動を周知し、こどもや親世代への啓発

現状と課題

庄内西校区は自治会を中心に校区福祉委員会・民生児童委員会・公民分館、地域に事業所などと協力して行事を一体的に行ってきた。しかし、コロナ禍で従来行っていた活動が3年間できなかったため、改めて各種団体との連携が重要である。また、数年後には学校統廃合により庄内西小学校が無くなる事による、地域の子どもや新しい学校との繋がりを再構築する必要がある。

大きなマンションは比較的少なく、古い戸建てや文化住宅が立ち並んでいたが、建て替えが進み新しい子育て世帯が転入してきている。多様な主体(事業所)との協働を活用しながら、若い子育て世代に福祉委員会を知ってもらい次の世代へつなげるかが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン 子育てサロン（ひよっこサークル） 給食会（ひとり暮らし高齢者対象）
世代間交流（芋植付け・芋ほり、昔遊び） 見守り声かけ活動（配食等も活用）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・（通所型）ぐんぐんぐ元気塾



庄内西小学校区 概要

人口	6,146 人	65 歳以上 単独世帯数	918 世帯	要支援・ 要介護者認定数	662 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	195 人
世帯数	3,433 世帯	独居高齢者 登録者数	187 人	要支援・ 要介護率	31.9%	小学校児童数	220 人
高齢者人口	2,076 人	独居登録率	20.4%	在留外国人人口	120 人	登録自治会数	13 会
高齢化率	33.8%	ひとり暮らし 老人の会	青空会	※島田地区と按分工エリアあり		加入世帯数	1,136 世帯 (33.1%)

38 庄内南

6年後の重点目標

こどもの居場所づくりを発展させ、多様な世代に魅力ある地域づくり

目標のための主な取り組み

- ・校区福祉委員会のこどもの居場所づくり(食堂・学習支援など)の継続及び発展実施
- ・子育て世代への校区福祉委員会活動の啓発及び参加を促す
- ・現在のこどもの居場所事業やふれあいサロンを活用した、多様な世代を巻き込んだ取り組み

現状と課題

庄内南校区は自治会を中心に校区福祉委員会・民生児童委員会・自主防災・公民分館など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。しかし、コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間でできなかったため、改めて協働して取り組んでいく必要がある。大きなマンションは比較的少なく、古い戸建てや文化住宅などが多く、昔ながらの地域のつながりが強く、市内でも自治会数が多い。一方で、市内の中でも高齢化率は高く、建て替えが進み新しい子育て世帯が転入してきている。地域のつながりという強みを活かしつつ、若い子育て世代に福祉委員会を知ってもらい次世代への継続的展開が課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン 子育てサロン(にこにこサロン) 給食会(配食 70歳以上の高齢者)
世代間交流(七夕・ソーメン流し・餅つき・クリスマス会・新年の集い)
見守り声かけ活動(ひとり暮らし高齢者への訪問 配食など)

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口

○住民主体ささえあい活動

- ・(通所型)ぐんぐん元気塾

○こどもの居場所づくり

- ・こども食堂・学習支援



庄内南小学校区 概要

人口	6,481人	65歳以上 単独世帯数	1,007世帯	要支援・ 要介護者認定数	723人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	272人
世帯数	3,618世帯	独居高齢者 登録者数	207人	要支援・ 要介護率	27.6%	小学校児童数	234人
高齢者人口	2,621人	独居登録率	20.6%	在留外国人人口	154人	登録自治会数	18会
高齢化率	40.4%	ひとり暮らし 老人の会	みどりの会	※千成校区と按分エリアあり		加入世帯数	1,539世帯 (42.5%)

6年後の重点目標

こどもたちの居場所づくりに取り組み、若い人に魅力ある街づくりを目指そう

目標のための主な取り組み

- ・こども食堂の開催（令和6年4月～千成センターにて実施）
- ・こども福祉委員（こども食堂のこどもたちと繋がる）

現状と課題

千成校区は57.2%加入率の自治会を中心に校区福祉委員会・民生児童委員会・公民分館など関係団体が協力して行事を一体的に行ってきた。

コロナ禍で従来行っていたイベントが3年間でできなかったことに加え、その間に学校の統廃合により、場所や先生が変わったことで従来の事業再開が困難な状況である。学校やPTAと各種団体との連携を再構築する必要がある。

従来からある住宅中心に地域と、大きなマンション、新しい一軒家40軒などが新しい子育て世帯が転入している地域と混在している。新しい世帯の自治会加入はほぼなく、若い子育て世代に地域活動、福祉委員会を知ってもらい、どう次の世代へつなげるかが課題となる。

活動内容

○小地域福祉ネットワーク活動（グループ援助活動・個別援助活動）

ふれあいサロン（いきいきサロン） 子育てサロン（たんぽぽ） 配食（独居登録者対象）
世代間交流（学校と要検討） 見守り声かけ活動（ひとり暮らし高齢者への訪問）

○敬老の集い

○福祉なんでも相談窓口（休止中）

○こどもの居場所づくり こども食堂



千成小学校区 概要

人口	6,302 人	65 歳以上 単独世帯数	783 世帯	要支援・ 要介護者認定数	491 人	避難行動要支援者 地域提供名簿同意数	196 人
世帯数	3,341 世帯	独居高齢者 登録者数	148 人	要支援・ 要介護率	27.0%	小学校児童数	215 人
高齢者人口	1,818 人	独居登録率	18.9%	在留外国人人口	126 人	登録自治会数	11 会
高齢化率	28.8%	ひとり暮らし 老人の会	休会中	※庄内南校区と按分エリアあり		加入世帯数	1,910 世帯 (57.2%)

資料編

豊中市社会福祉協議会 地域福祉活動計画推進委員会設置要綱

(目 的)

第1条 この委員会は、市民・関係団体・事業者・行政等が連携しこれからの地域福祉を発展させていくために、豊中市社会福祉協議会が策定した「地域福祉活動計画」の推進・点検・見直しを進めていくことを目的とする。

(名 称)

第2条 この委員会は、豊中市社会福祉協議会 地域福祉活動計画推進委員会（以下「委員会」という）と称する。

(委員の構成)

第3条 この委員会は、委員25人以内をもって組織する。

2. 委員は次の各号に掲げる者の中から、会長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 社会福祉を目的とする団体及び事業者
- (3) 市民関係団体
- (4) 関係行政機関
- (5) 社会福祉協議会関係者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

2. 補欠により就任した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 この委員会に委員長1名及び副委員長1名をおく。委員長及び副委員長は委員の互選によって選出する。

2. 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があったときは、その職務を代行する。

(会議)

第5条 会議は委員長が招集し、会議の議長となる。

2. 委員会は委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

(部会)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員会に部会をおくことができる。

2. 部会は委員長が指名する委員及び専門委員で組織する。
3. 部会には部会長をおき、部会に所属する委員のうちから委員長が指名する。
4. 部会長は、部会における審議状況及び結果を委員会に報告しなければならない。

(意見の聴取)

第7条 委員会が必要と認めるときには、委員以外の者に出席を求め、その意見もしくは説明を聞き、資料の提出を求めることができる。

(事務局)

第8条 委員会の事務局は、豊中市社会福祉協議会内におく。

(その他)

第9条 この要綱に定めのない事項については、委員会で協議し、決定する。

附 則

1. この要綱は、平成16年6月1日から施行する。

地域福祉活動計画推進委員会 名簿

(敬称略)

No.	役 職	名 前	選 出 母 体	
1	委員長	牧里 每治	学識経験者	
2		仲 峰子	校区福祉委員会（刀根山）	
3	副委員長	滝下 勇次	校区福祉委員会（北丘）	
4		荒木 恵美子	校区福祉委員会（豊島）	
5		谷口 富男	校区福祉委員会（野田）	
6		永峰 康人	豊中市民生・児童委員協議会連合会	
7		辻下 勝巳	豊中市社会福祉施設連絡会	
8		安家 比呂志	豊中市民間保育園連合会	
9		井谷 弘治	豊中市老人クラブ連合会	
10		細谷 正純	豊中市社協ボランティア団体連絡会	
11		谷口 太枝子	豊中市老人介護者（家族）の会	
12		吉村 史生	福祉の店「なかま」運営委員会	
13		伊山 雅子	「一歩の会」にじいろ	
14		牧内 敏郎	豊中市公民分館協議会	
15		星屋 好武	豊中市手をつなぐ育成会	
16		酒井 留美	とよなか人権文化まちづくり協会	
17		村上 功	豊中市介護保険事業者連絡会	
18		甲斐 智典	豊中市福祉部地域共生課	
19		芳村 幸司	特定非営利団体 ユニバーサルデザイン推進協会	
20		山野上 隆史	（公財）とよなか国際交流協会	
21		木戸 典子	（一財）とよなか男女共同参画推進財団	

オブザーバー 市社協副会長 平井 薫

地域福祉活動計画推進委員会 委員の計画へのコメント

校区の高齢化率が高く高齢者の見守り活動の必要性は強く感じる。高齢者の生きがいづくりを目的に手芸やおしゃべりなどをサロンなどをサロンに取り入れ大変喜ばれている。

小学生と芋ほり、干支づくりと世代間交流を楽しくやっているが、担い手の高齢化もあり続けていくことに不安を感じる。しかし、若い世帯が参加できる地域福祉を実現し安心して暮らし続けられるように、社会福祉協議会とともに人材育成担い手の継承に困ることがない新しい仕組みづくりを求めています。

豊島校区福祉委員会 荒木 恵美子

地域福祉活動計画推進委員会の会議に出席させていただき、参加された方たちの熱い意見を聞くことができました。そしてわたしにもできることがあるように思えたので、前進していきたいと思いました。コロナ禍で中止していた事業も順次再開していきますので、私も共に行動していきたいと思います。

豊中市民生・児童委員協議会連合会 永峰 康人

豊中市老人クラブ連合会（市老連）は豊中市を四つのブロック（北部、中部、南部、東部）に分けブロック長は市老連の副会長の兼任しています。地域ごとにそれぞれ単位老人クラブがあり、老人憩の家を中心に教養、健康、レクリエーションの場を提供しております。老人クラブの会員も各地の校区福祉委員会主催のオレンジカフェ、元気体操、食事会等に参加させていただいており、また見守り活動でお世話になっております。

豊中市老人クラブ連合会 井谷 弘治

多様化・複雑化する市民ニーズに加え、近年特に顕在化してきた「あらゆる世代における孤独や社会的孤立」という深刻な問題について、地域福祉活動によるサポートを期待します。当財団でも「困難な問題をか抱える女性への支援に関する法律」や「改正DV防止法」の4月施行を踏まえ、指定管理事業をはじめとした男女参画推進事業の充実や関係先との調整・連携を図ってまいります。

（一財）とよなか男女共同参画推進財団 木戸 典子

本計画の策定にあたり、校区福祉委員会をはじめ、様々な地域での取り組みをあらためて知ることができました。身近な地域での日ごろの人と人の関わりがつながりを広げ、地域コミュニティがつけられ、たとえ、困難を抱えた人がいても地域や専門相談機関、行政が連携して支えていく。そのような、地域共生社会の実現に向けて、地域の皆様の活動に感謝し、今後も社会福祉協議会と連携した取り組みを進めていきたいと思っています。

豊中市福祉部地域共生課 甲斐 智典

第5期地域福祉活動計画が更なる「地域福祉の向上」につながることを期待しています。

計画の基本コンセプトの次世代の担い手の拡大については、豊中市と市社協においては10の重要課題に特に力を注ぐようお願いいたします。

また、9年生の義務教育学校の開校により、小学校が廃校の地区福祉委員会の地域には事業の再構築のため、CSWの手厚い配置が必要と考えます。

野田地区社会福祉委員会 谷口 富男

当会も昨年度35周年を迎えることができました。この長い道のり、皆さまのご支援に深く感謝申し上げます。

私たちは、認知症になっても介護が必要になっても、住み慣れた豊中で安心して過ごすことができますように、そして介護家族も自分たちの生活を変えることなく安心して介護できることを願っています。

第5期も「オレンジカフェ」をはじめとした色々な事業が「認知症にやさしい街とよなか」をつくっていく事を期待申し上げます。

豊中市老人介護者（家族）の会 谷口 太枝子

高齢者、障害者、子育て、引きこもり、外国人、生活、困窮者等々、様々な分野の人たちが、計画策定のために一堂に会し、意見を交換する機会を持つことができたのは、とても有意義なことでした。

例えば、自治会の広報紙等を個別に配布する仕事など、担い手が減ってきている現状で障害者の事業所などが請け負ってできないかといった意見が出たりして、これからの可能性の一つを感じることができました。

福祉の店「なかま」運営委員会 吉村 史生

この数年、豊中市で生活する外国人は大きく増えました。とよなか国際交流協会でも多言語相談や日本語交流活動、子どもの学習支援など行っていますが、センター等の拠点を中心とした取組で、全ての人とつながれているわけではありません。

みなさんの地域に根差し、地域から積み上げていく活動ととよなか国際交流協会がつながることで、地域で暮らす外国人が豊中に来て良かったと思ってもらえるように共生のまちづくりを進めていきたいです。

（公財）とよなか国際交流協会 山野上 隆史

計画の策定経過

(1) 地域福祉活動計画推進委員会

日程	会議名	内容
R5.1.26	令和4年度 第1回地域福祉活動推進委員会	・正・副委員長の選出 ・地域福祉計画の状況とこれからの動き ・豊中市社会福祉協議会の取り組みについて ・地域福祉活動計画の取り組みについて ・地域福祉活動計画（Link プランとよなか4）の重点プロジェクト ・施策の展開の進捗について など
R5.9.4	令和5年度 第1回地域福祉活動推進委員会	・第4期地域福祉活動計画の進捗状況について ・豊中市地域福祉計画策定に向けての状況について ・第5期地域福祉活動計画 骨子（案）について ・第5期計画策定に向けての今後の進め方（案）について など
R5.11.22	令和5年度 第2回地域福祉活動推進委員会	・第5期地域福祉活動計画策定に向けての動きについて ・第5期地域福祉活動計画（Link プランとよなか5）の構成案について
R6.2.28	令和5年度 第3回地域福祉活動推進委員会	・素案について

(2) 関係団体ヒアリング（R5. 5. 25～5. 26）

日程	団体名	人数	主な意見
R5.5.25	ひとり暮らし老人の会	3人	・自転車に乗れないと移動が難しい ・時間があるので物価高騰だが何度にも分けて買い物に行っている ・こどものいない一人暮らし高齢者は終活が課題→孤独死の問題・死後委任事務 ・豊中市中央まで移動は困難、近所で気軽に集まれる場所が大切。お寺などが使えないか ・カラオケ大会などの発表の場があると楽しみ ・会員同士話し合い・電話相談などがある→民生委員や CSW につなぐ

R5.5.25	発達障害者の家族の会「一歩の会」・「にじいろ」	3人	・当初話し合う場所ができてよかったがどの家庭も問題が複雑で解決できない ・時間がない。8050 が 9060 になっている ・50 代以上は診断なく生きづらく親子が孤立してきた ・10 代で早く診断することにより早期発見することができ療育につながることもある ・中学で支援が薄くなり 18 歳になると支援が途切れる ・学校でいじめが多い 結果として二次障害になっている人も多い ・親の声を要望するにはどうしたらいいか。 ・行政にはもっと啓発やどこに相談したらいいのかトータルに相談に乗ってもらえる窓口が欲しい ・親亡き後の生活への不安 ・学校と福祉の連携の取り組みありがたい ・もっと安心できる居場所が必要
	福祉の店「なかま」運営委員会	1人	・早くに社協がネットワークを作り店の運営ができて感謝している ・作業所時代と違って制度は整ってきたが、支援する人材がいらない ・障害者施設は地域やボランティアとの連携が少なくなっている ・施設で BCP（事業継続計画）を作るといのが地域との連携が少ない → 高齢者施設のような運営推進会議もない インクルーシブ教育だが放課後デイが増加し、地域で障害者と出会えない ・株式会社など施設の実施主体も増えている社協がネットワークを広げてほしい
	豊中市老人介護者家族の会	7人	・老々介護、認知介護、遠距離介護、男性介護どうしたらいいのかわからない人がたくさんいる ・コロナで認知症が増えている家族も施設の面会もなく孤立している ・認知症徘徊 SOS が土日配信できる体制 ・オレンジカフェが増えて相談しやすくなったがもっと身近に作ってほしい ・リフレッシュ事業は泊まりにしてほしい
R5.5.25	脳損傷家族会「アンダンテ」	1人	・救命力世界一の豊中は高次脳機能障害の人も多い ・労災や裁判を考えると初期の状況の記録が大切。救急隊と連携や学習できないか ・急性期で生活が落ち着くと会をやめる人が多く、いつも会費が不足がち

			・今後の生活を考えるとお金が大切 ・後見人や高次脳の啓発をもっと行ってほしい ・手続きが大変だが病院のソーシャルワーカーとはあまり連携がない ・豊中でもネットワークを作る必要があるのでは…
	子ども食堂	1 人	・見守り隊の中でコロナになり大変な子供たちが目に付くようになり、親用の食堂を始めた ・校長の考え方で学校との連携はまちまち ・お母さんが自転車で送ってくる人が多い。不登校が多いということでは ・念願の朝ご飯を始めたが、届けたい子には届かない ・遅刻してくる子については学校と対応について話し合っている ・助けたい子は多いが、コロナで人数制限している。人数が増えると学習支援が丁寧にできない人の問題 ・コロナでラインの公式アプリで申し込みを始めた。すぐいっぱいになる。課題はたくさん。でも食事を一緒にすることは大切で頑張っていきたい ・地域の人材も所属で頼むと不満になるので手上げでやると案外まだまだできる
R5.5.26	公益財団法人 とよなか国際交流 協会	1 人	・コロナでたくさんの外国人の実態が分かった ・技能実習生がもっともって入ってくる ・多言語スタッフがいるが、土日は出来ないし、とりこぼし多い ・日本語ボランティアもいるが労働者などとはつながっていない ・行政への不信もあるので知られたくない ・市社協の食のアウトリーチとどう連携するか → 入学時に必要な手続き多言語版の作成 ・豊中で多言語を話せる外国に駐在していた人のボランティア募集 ・食やスポーツバザーなどでもっと交流したい。地域の側からのアプローチ期待 ・「日本人に見える」「いつ帰るの」と言われると疎外感ある（マイクロアグレッション）。市民向けの学習会必要

(3) 校区福祉委員会 ヒアリング (R5. 10. 16~11. 30)

日にち	地区名
R5.10.16	桜塚
	東泉丘
10.17	寺内
10.18	熊野田
	大池
10.19	西丘
10.23	野畑
10.24	北丘
10.25	大池
	庄内
10.26	桜井谷
10.27	庄内西
11.1	緑地
	豊島
	東豊中
11.2	上野
	島田
11.6	小曽根
	庄内南
11.7	南丘
11.8	高川
	原田

日にち	地区名
11.9	豊島西
11.10	中豊島
11.13	泉丘
11.14	野田
	東丘
11.15	東豊台
11.16	北条
	南桜塚
	豊南
11.17	少路
	北緑丘
	箕輪
11.20	刀根山
11.21	千成
11.24	上新田
11.28	蛭池
	克明
11.30	豊島北
計	39校区福祉員会

	R 1 (H 31)	R 2	R 3	R 4	R 5	link プラン4
① ひとりも取りこぼさない						
・小地域福祉ネットワーク	見守り世帯数/ 見守り支援延べボランティア数	11,011 世帯/ 6,023 名	10,897 世帯/ 6,527 名	9,238 世帯/ 6,442 名	➡	充実
・福祉なんでも相談	実施校区数	38 校区	39 校区	39 校区	➡	継続
・見守りローラー作戦	実施校区数	9 校区 新型コロナウイルス 感染症により中止	4 校区	3 校区	➡	拡充
・防災・福祉ささえあいづくり推進事業	避難行動要支援者名簿同意者数/ 災害時の避難支援等実施 フロー図作成校区数	8,577 名 7 校区	8,512 名 7 校区	8,499 名 7 校区	➡	拡充
・マンションサミット	開催回数 / 参加者数	2 回 / 132 名	2 回 / 80 名 (うちWEB会議参加61名)	2 回 / 122 名 (うちWEB会議参加 40 名) NHK「クローズアップ現代」 放送	➡	拡充
・多機関協働（早期発見の仕組み）	会議	研修会2回	1 回	1 回	➡	啓発充実
・企業の見守りネットワーク	高齢者見守りネットワーク会議・ 参加者 / V ネットとよなか加盟 企業数	1 回 / 13 名 V ネット 17 団体	コロナ禍での見守り 要請文書送付	実施なし	➡	啓発充実
② 排除から包摂へ						
・コミュニケーションソーシャルワーカー支援		継続	継続	継続	➡	継続
・福祉教育の推進		啓発活動	啓発活動	啓発活動	➡	啓発充実
・公民協働の地域づくり		充実	充実	充実	➡	充実
・当事者の組織化（発達障害など）	アンタونده・一歩の会 にじいろ・独居の会	充実	充実	充実 ・ひとり暮らし老人 の会連絡会の解散	➡	拡充
・施設コンフリクトの解消		啓発検討	啓発検討	啓発検討	➡	啓発検討
・マイノリティの課題への対応（外国人・LGBT）	外国人技能実習生への 食材支援	・外国人アンケート の実施 40 名対象	・外国人技能実習生 への食材支援 ・外国人相談会 ・フットサル交流会	・外国人技能実習生 への食材支援 ・ウクライナからの 避難世帯への支援 ・外国人相談 ・フットサル交流会	➡	啓発検討

	R 1 (H 31)	R 2	R 3	R 4	R 5	link プラン4
③ すべての人に居場所と役割・多様な社会参加のプログラム						
・定年後の男性	豊中あぐり 登録者数	130 名	129 名	146 名	150 名	↑ 拡充
・引きこもりの人たち	びーの×びーの登録者数	136 名	90 名	96 名	105 名	↑ 充実
・認知症・虚弱高齢者	ももの会 開催数 / 参加者数 オレンジカフェ 開催数	5 回 / 49 名	2 回 / 14 名	6 回 / 52 名 5 ヶ所	6 回 / 21 名 8 ヶ所	↑ 拡充
・障害がある人	福祉の店「なかま」 協力事業者数	25	25	26	27	↑ 拡充
・子育て中の人	子育てサロン実施校区数	39 校区	39 校区	39 校区	39 校区	↑ 拡充
・子どもの居場所	こども食堂・学習支援 ネットワーク加盟数	21 か所	21 か所	27 か所	32 か所	↑ 拡充
④ 支えられていた人が支え手になる						
・生活困窮者自立支援	相談件数	3,233	6,648	15,641	12,635	↑ 継続
・新たな担い手づくり	生活支援コーディネーター 事業	・介護予防お助け バンクの設置	・介護予防お助け隊 ・YouTube 出演	・福祉お針箱	・スマホ講座 ・安心サポーター 研修定期開催	↑ 検討
・安心サポーター	サポーター数	655 名	663 名	677 名	787 名	↑ 拡充
・福祉便利屋事業	相談件数 / 実施件数 (本部)	244 件 / 151 件	264 件 / 107 件	330 件 / 100 件	525 件 / 144 件	↑ 拡充
⑤ 新たな担い手の醸成						
・福祉教育	体験学習依頼件数 / 体験 P 参加者数	19 回 / 99 名	9 回 / 中止	14 回 / 中止	19 回 / 7 名	↑ 充実
・ボランティアセンターの推進	登録ボランティア団体連絡 会数	44 団体	44 団体	42 団体	41 団体	↑ 充実
・とよなか地域ささえ愛ポイント	活動登録者数	1,047 名	1,051 名	1,095 名	1,128 名	↑ 継続
・安心サポーター	安心サポーター研修実施回 数 / 参加者数	6 回 / 88 名	新型コロナウイルス 感染症により中止	1 回 / 11 名	37 回 / 107 名	↑ 拡充
・市役所職員協働型職員		市職員 2 年目研修協力	市職員 2 年目研修協力	市職員 2 年目研修協力	市職員 2 年目研修協力	↑ 検討

	R 1 (H 31)	R 2	R 3	R 4	R 5	link プラン4
⑥ 権利擁護体制の構築						
・地域での権利擁護	小地域福祉ネットワーク活動	11,046 世帯	11,011 世帯	10,897 世帯	9,238 世帯	➡ 拡充
・施設での権利擁護	介護相談員派遣 受入施設数	116 施設	115 施設	112 施設	110 施設	➡ 拡充
・日常生活自立支援事業	利用件数	177 件	171 件	184 件	171 件	➡ 継続
・法人・市民後見		3 件	3 件	3 件	3 件	➡ 拡充
・後見サポートセンター	実施	実施	実施	実施	実施	➡ 検討
・死後委任事務・保証人	検討	検討	検討	検討	調査	➡ 検討
⑦ パートナースhipで目標達成						
・協議体（第一層・第二層・第三層）		継続	継続	継続	継続	➡ 継続
・地域福祉ネットワーク会議	7 圏域で年 2 回実施	継続 (コロナで2回中止)	継続	継続	継続	➡ 継続
・社会福祉法人の社会貢献	社会貢献リスト作成 レスキュー事業	社会貢献リスト作成 レスキュー事業 宅食 協力	レスキュー事業 宅食 協力 大人食堂 協力 コロナワクチン接種 協力	レスキュー事業 宅食 協力 大人食堂 協力 コロナワクチン接種 協力	➡	➡ 拡充
・民間企業との協働 (フードドライブ・リユース・移動販売車・出前市場・就労支援など)		拡充	拡充	拡充	➡	➡ 拡充
・生活支援コーディネーターによる新しい支えあいのしくみづくり	校区福祉便利屋事業	校区福祉便利屋事業	校区福祉便利屋事業 移送サービス 移動販売 キッチンカー	校区福祉便利屋事業 移送サービス 移動販売 キッチンカー	➡	➡ 検討
・多機関協働（出口づくり）		学習支援など	学習支援 外国人交流会など	学習支援 外国人交流会など	➡	➡ 検討
・びーの×マルシェ等（多様な主体との協働事業）		ホームページ作成	プログラム更新	プログラム更新	➡	➡ 継続

	R 1 (H 31)	R 2	R 3	R 4	R 5	link プラン4
⑧ 安定的な財源づくり						
・賛助会費		29,630,500 円	21,929,000 円 広報紙添付の振込用紙	25,231,500 円 広報紙添付の振込用紙 インターネットによる申込み	27,497,500 円 広報紙添付の振込用紙 インターネットによる申込み	↑ 啓発充実
・目的型募金(善意銀行)(コロナに負けるな応援キャンペーン)		1,495,535 円	7,023,199 円	4,352,191 円	3,558,223 円	↑ 啓発充実
・ふるさと納税との連携		豊中あぐり野菜商品化	豊中あぐり野菜商品化	豊中あぐり野菜商品化	豊中あぐり野菜商品化	↑ 検討
・クラウドファンディング		検討	検討	検討	検討	↑ 検討
・共同募金の普及…共同募金自動販売機の推進・寄付つき商品等			(自動販売機) 34,693 円 (寄付つき商品) 427,000 円	(自動販売機) 34,406 円 (寄付つき商品) 386,500 円	(自動販売機) 20,227 円 (寄付つき商品) 390,000 円	↑ 検討
・トーンなどの新たな通貨の検討			研究	研究	研究	↑ 研究
⑨ 新たな課題への対応						
・学校・教育委員会との連携	SSW と CSW の連絡会など	3 回	3 回	全体会 2 回 7 圏域ごと各 2 回 モデル校・希望との 懇談 8 回	1 回 7 圏域ごと各 1 回	↑ 検討
・子育て支援ヘルパー等(宅食数含む)			51 世帯	80 世帯	122 世帯	↑ 検討

▼ トピックス

令和5年度版 厚生労働白書 に福祉のフロントランナーとして、豊中市社会福祉協議会が掲載されました！！

第1章

社会保障を取り巻く環境と人々の意識の変化

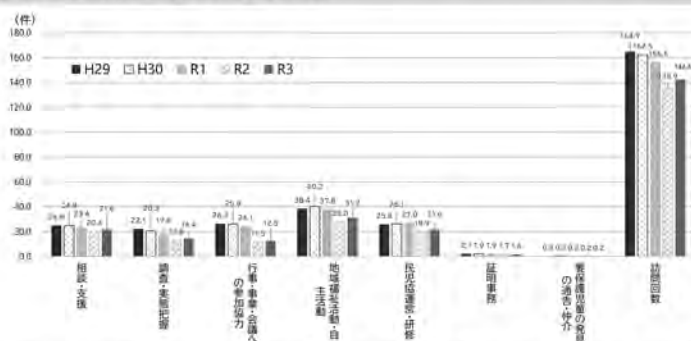
福祉のフロントランナーとしての社会福祉協議会

社会福祉協議会には、福祉の在り方をリードしてきた先進事例がある。例えば、ひきこもりの方への、支える側と支えられる側を固定化しない「藤里方式」の支援で知られる秋

田県藤里町社会福祉協議会、生活困窮者自立支援制度の検討に実践・理論の両面で深く関わった大阪府豊中市社会福祉協議会のような先進事例が、今後も登場することを期待したい。

年間1人当たり民生委員・児童委員の活動件数（活動内容別）

- 過去5年間において、「訪問回数」は年間1人当たり約142件～165件であり、活動内容として一番多くなっている。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和元年度、令和2年度は全体的に活動件数が下がっているものの、令和3年度の活動件数は上昇に転じている。



注) 年間1人当たり件数は「福祉行政報告例」による各年度分の「活動件数」を「民生委員委嘱数」で除したものの



民生委員・児童委員のマーク

現在のマークは1960（昭和35）年に公募で選ばれたものです。幸せのめばえを示す四つ葉のクローバーをバックに、民生委員の「み」の文字と児童委員を示す双葉を組み合わせ、平和のシンボルの鳩をかたどって、愛情と奉仕を表しています。

豊中市の現状

校区名	創立年月日	人口 (A) (人)	世帯数 (B) (世帯)	高齢者 人口 (C) (人)	高齢化率 (C/A)	65歳以上 単独世 帯数 (D) (世帯)	登録独 居 老人数 (E)	登録率 (E/D)	要支 援・要 介護者 認定者 数 (G)	要支 援・要 介護率 (G/C)	避難行動 要支援者 地域提供 名簿同意 者数	小学校 児童数	在留外 国人口 (人)	登録自 治会数 (H)	加入世 帯数 (I)	加入率 (J)
大池	1977.8.1	14,315	6,925	3,667	25.6%	1,214	209	17.2%	806	22.0%	282	746	168	11	3,177	45.9%
刀根山	1976.12.12	14,901	7,272	3,730	25.0%	1,184	164	13.9%	753	20.2%	223	730	520	21	2,109	29.0%
桜井谷	1976.9.11												583			
①桜井谷		11,289	5,261	2,541	22.5%	746	109	14.6%	542	21.3%	164	630	416	8	1,128	21.4%
②桜井谷東		15,109	6,317	2,709	17.9%	788	94	11.9%	533	19.7%	166	1,249	167	6	946	15.0%
蛭池	1986.9.21	10,314	5,938	2,695	26.1%	1,064	104	9.8%	586	21.7%	217	360	293	22	1,814	30.5%
箕輪	1984.4.8	7,415	3,770	1,944	26.2%	755	127	16.8%	447	23.0%	125	314	153	5	1,250	33.2%
野畑	1990.3.20	11,715	5,188	2,962	25.3%	903	190	21.0%	638	21.5%	237	664	129	17	1,639	31.6%
上野	1978.4.11	16,764	6,938	3,939	23.5%	1,111	143	12.9%	823	20.9%	257	1,123	181	3	2,372	34.2%
少路	1982.7.14	11,695	4,613	2,522	21.6%	647	92	14.2%	451	17.9%	134	752	211	5	1,271	27.6%
北緑丘	2019.5.18	7,126	3,358	2,364	33.2%	674	106	15.7%	392	16.6%	115	382	69	5	796	23.7%
東豊中	1975.12.5	8,114	3,836	2,266	27.9%	734	175	23.8%	463	20.4%	155	505	240	11	1,004	26.2%
東豊台	1980.1.15	8,896	3,848	2,289	25.7%	732	147	20.1%	484	21.1%	169	534	124	7	1,163	30.2%
上新田	1984.7.14												227			
①新田		11,587	4,869	2,081	18.0%	516	48	9.3%	316	15.2%	94	859		2	3,295	67.7%
②新田南		9,194	4,182	2,102	22.9%	751	93	12.4%	416	19.8%	128	540		15	1,672	40.0%
東丘	1978.8.27	9,865	4,757	2,854	28.9%	1,130	226	20.0%	636	22.3%	224	624	159	15	2,513	52.8%
西丘	1980.9.8	8,376	3,625	2,134	25.5%	736	97	13.2%	476	22.3%	131	662	81	10	1,850	51.0%
南丘	1977.12.4	10,551	4,825	3,004	28.5%	1,091	192	17.6%	777	25.9%	254	685	90	17	2,936	60.8%
北丘	1970.11.16	7,292	3,514	2,477	34.0%	924	182	19.7%	690	27.9%	239	443	94	9	1,689	48.1%
東泉丘	1990.2.25	8,568	3,429	1,578	18.4%	439	55	12.5%	273	17.3%	69	620	100	10	1,135	33.1%
桜塚	1976.3.21	10,054	4,797	2,415	24.0%	888	141	15.9%	529	21.9%	191	556	114	4	2,890	60.2%
南桜塚	1978.3.1	12,518	5,730	2,904	23.2%	1,017	161	15.8%	658	22.7%	219	819	149	5	2,312	40.3%
克明	1986.12.2	10,933	5,926	3,014	27.6%	1,133	157	13.9%	722	24.0%	234	414	227	15	1,884	31.8%
熊野田	1975.7.20	11,261	4,962	2,665	23.7%	829	138	16.6%	556	20.9%	191	678	128	16	1,356	27.3%
泉丘	1982.7.11	11,861	5,043	2,782	23.5%	822	118	14.4%	480	17.3%	157	706	119	16	1,549	30.7%
緑地	1982.4.25	11,295	5,227	2,630	23.3%	855	120	14.0%	543	20.6%	185	704	135	13	1,423	27.2%
北条	1978.6.4	9,061	4,088	2,344	25.9%	769	94	12.2%	537	22.9%	160	551	92	9	1,018	24.9%
小曽根	1979.7.14	6,803	3,434	1,739	25.6%	601	47	7.8%	429	24.7%	108	291	134	9	2,031	59.1%
寺内	1992.6.7	9,814	4,943	1,870	19.1%	674	82	12.2%	309	16.5%	108	524	141	2	800	16.2%
豊南	1978.10.7	6,335	3,366	1,889	29.8%	851	130	15.3%	549	29.1%	194	292	127	14	1,355	40.3%
高川	1995.2.4	6,199	3,299	1,645	26.5%	664	126	19.0%	468	28.4%	154	263	163	7	865	26.2%
原田	1982.4.1	11,755	6,092	3,206	27.3%	1,154	153	13.3%	724	22.6%	218	608	261	8	778	12.8%
中豊島	1974.11.30	12,362	6,364	3,108	25.1%	1,195	104	8.7%	679	21.8%	219	629	163	15	1,585	24.9%
豊島北	1974.12.7	10,574	5,360	2,757	26.1%	1,143	168	14.7%	637	23.1%	236	462	166	11	1,165	21.7%
豊島西	1979.1.28	7,874	3,975	2,184	27.7%	771	151	19.6%	500	22.9%	136	359	262	15	1,457	36.7%
豊島	1985.4.14	13,171	7,626	3,697	28.1%	1,771	187	10.6%	931	25.2%	351	540	311	22	911	11.9%
庄内	1983.7.27	7,564	4,456	2,575	34.0%	1,167	230	19.7%	758	29.4%	284	245	159	8	1,323	29.7%
島田	1984.1.20	6,376	3,621	2,124	33.3%	910	172	18.9%	598	28.2%	186	215	250	18	964	26.6%
野田	1984.4.1	9,106	5,630	2,914	32.0%	1,445	229	15.8%	758	26.0%	335	262	273	11	1,053	18.7%
庄内西	1979.12.23	6,146	3,433	2,076	33.8%	918	187	20.4%	662	31.9%	195	220	120	13	1,136	33.1%
庄内南	1982.4.1	6,481	3,618	2,621	40.4%	1,007	207	20.6%	723	27.6%	272	234	154	18	1,539	42.5%
千成	1981.8.1	6,302	3,341	1,818	28.8%	783	148	18.9%	491	27.0%	196	215	126	11	1,910	57.2%
合計		406,931	196,796	104,835	25.8%	37,506	5,803	15.5%	23,743	22.6%	7,912	22,209	7,146	459	65,063	33.1%
		R5.4.1現在	R5.4.1現在	R5.4.1現在	R5.4.1現在	R5.4.1現在	R5.4.1現在	R5.4.1現在	R5.4.1現在	R5.4.1現在	R5.6.1現在	R5.5.1現在	R6.2.1現在	R5.4.1現在	R5.4.1現在	

(参考)

庄内さくら学園		23,046	13,707	7,613	33.0%							727				
---------	--	--------	--------	-------	-------	--	--	--	--	--	--	-----	--	--	--	--



第5期 豊中市地域福祉活動計画

Link プラン とよなか5

令和6年（2024年）3月

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
豊中市地域福祉活動計画推進委員会

〒561-0881 豊中市中桜塚2丁目29-31
地域共生センター 東館（まるぷらっと）2階

電 話 （06）6841-9393

FAX （06）6841-2388

E-mail tcpvc@gold.ocn.ne.jp

URL <https://www.toyonaka-shakyo.or.jp/>